



#### 「はなやか関西～文化首都年～」とは

関西は日本の文化の源泉であり、今も「本物」の文化を継承・発展させている地域です。「はなやか関西～文化首都年～」では、こうした関西が誇る「本物」を活かした取組を「テーマ」で東ね、国内外へ発信していきます。「関西ブランド」の創造により関西の価値や魅力を高め、関西一丸で、日本を先導する「文化首都圏・関西」の形成を目指します。

#### 平成23年度のテーマは「茶の文化」です

- 茶は、日常の飲物として私たち日本人に広く愛されているとともに、「茶道」をはじめ関西をルーツとする「茶の湯文化」が起点となり、わが国独特のもてなしの文化が確立されてきました。
- 茶道具、茶室、庭園、菓子など関西生まれの茶の文化は、海外においても高い評価を得ており、関西は日本を代表する「茶の文化」の中心といえます。

はなやか関西 ～文化首都年～ 2011 「茶の文化」 実行委員会

お問い合わせ先：近畿圏広域地方計画推進室 電話 06-6942-1056 FAX 06-6942-3912

●詳しくはホームページ ● <http://www.kkr.mlit.go.jp/kokudokeikaku/index.html>

文化首都年2011

検索

# 関西はなやか美術館

— 関西で「本物」の茶道具を所蔵する美術館 —



はなやか関西 ～文化首都年～ 2011 「茶の文化」 実行委員会



# 関西はなやか美術館

— 関西で「本物」の茶道具を所蔵する美術館 —

## はじめに

### 目次

はじめに 茶の湯文化学会会長 谷晃 たに あきら 2

#### 【滋賀県内】

さがわびじゅつかん 佐川美術館 3  
ひこねじょうはくぶつかん 彦根城博物館 5

#### 【京都府内】

おおにしせうえもんびじゅつかん 大西清右衛門美術館 7  
おもてせんけきたやまかいかん 表千家北山会館 9  
きたむらびじゅつかん 北村美術館 11  
しょうこくじょうてんかくびじゅつかん 相国寺承天閣美術館 13  
ちやどうしりょうかん 茶道資料館 15  
こうえきざいだんほうじんのむらぶんかざいだん のむらびじゅつかん 公益財団法人野村文華財団 野村美術館 17  
ほそみびじゅつかん 細見美術館 19  
やわたしりつしょうかどうていえん びじゅつかん 八幡市立松花堂庭園・美術館 21  
こうえきざいだんほうじん らくびじゅつかん 公益財団法人 楽美術館 23

#### 【大阪府内】

おおさかしりつとうようとうびじゅつかん 大阪市立東洋陶磁美術館 25  
いずみしくぼそうきねんびじゅつかん 和泉市久保惣記念美術館 27  
ざいだんほうじんほんきゅうぶんかざいだん いつおうびじゅつかん 財団法人阪急文化財団 逸翁美術館 29  
ざいだんほうじん ふじたびじゅつかん 財団法人 藤田美術館 31  
まさきびじゅつかん 正木美術館 33  
ざいだんほうじん ゆきびじゅつかん 財団法人 湯木美術館 35

#### 【兵庫県内】

こうえきざいだんほうじん こうせつびじゅつかん 公益財団法人 香雪美術館 37  
こうえきざいだんほうじん はくつるびじゅつかん 公益財団法人 白鶴美術館 39

#### 【奈良県内】

ざいだんほうじん やまとぶんかかん 財団法人 大和文華館 41

※ 府県順・五十音順



茶の湯文化学会会長 谷晃 たに あきら

現在、関西の地盤沈下が指摘されており、経済面だけでなく文化面でも大きなイベントはまず東京で催され、その一部が関西その他の地方へ巡回するのが一般的です。しかし和食や和菓子あるいは茶の湯など、伝統的な日本文化になると、まだまだ関西の底力は東京を凌駕するものがあります。

さらに目を美術館に転じますと関西には規模は小さいながらもすぐれた美術品をたくさん所蔵し、魅力的な展覧会をつぎつぎと開催しているところが少なからずあります。そのような美術館は国公立にもあるとはいえ、主となるのは私立美術館だといえましょう。その理由は私立美術館の多くはコレクターが蒐集した美術品をもとに開館しているので、コレクターの好みや性格が色濃く反映されているからです。またそれらコレクターたちは、かつて数寄者として茶の湯に深く傾倒した人物が多いため、それらの蒐集品には茶の湯に関する物、つまり茶道具として茶会に使われ、そこに集う人々の目を楽ませた美術品がたくさんあります。

ですからこの小冊子で紹介した美術館を見れば関西の文化力がいかに高いものであるか実感できるでしょうし、皆さんに是非この小冊子をガイドとして多くの美術館巡りをして、関西の文化力を再認識していただきたく願っています。

#### 谷晃 (たに あきら)

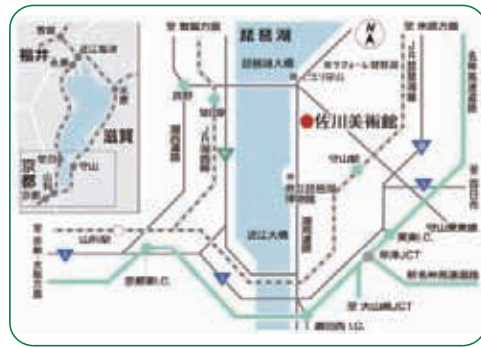
1944年愛知県生まれ。京都大学史学科卒業。芸術学博士。香雪美術館を経て、現在、野村美術館理事・学芸部長、茶の湯文化学会会長。専攻は茶の湯文化史。著書に『茶会記の風景』(1995年)、『茶会記の研究』(2001年)、『茶人たちの日本文化史』(2007年)など。



# 佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川2891  
 TEL.077-585-7800 FAX.077-585-7810  
 URL <http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/>  
 E-mail [art\\_sagawa@sagawa-artmuseum.or.jp](mailto:art_sagawa@sagawa-artmuseum.or.jp)

**アクセス** ■名神瀬田西ICより約30分 ■名神栗東ICより約30分  
 ■名神京都東ICより、湖西道路・琵琶湖大橋経由約30分  
 ■JR守山駅よりバス約25分「佐川美術館」下車 ■JR堅田駅よりバス約15分「佐川美術館」下車



佐川美術館は佐川急便の創業40周年記念事業の一環として琵琶湖をのぞむ美しい自然に囲まれた近江・守山の地に1998年3月に開館いたしました。

開館より10年後の2007年9月には、佐川急便の創業50周年を記念して佐川美術館に「樂吉左衛門館」を開館いたしました。「樂吉左衛門館」は、佐川急便が創業の地とする京都で茶



茶室 広間「俯仰軒」

道を担う千家十職のうちの陶工として400年余りの伝統を守り続けてこられた名門樂家の十五代当主・樂吉左衛門氏の主に2000年以降に作陶された作品を展示しています。構想の発端には、樂家の伝統に立脚しながら斬新な感覚を示す造形美の世界を広く発信していきたいという想いがあり、その建設にあたっては、樂氏自らが「守破離」\*をコンセプトに水庭に敷設された展示室と茶室で構成した設計の創案を行われました。佐川美術館は、「樂吉左衛門館」の開館により、日本を代表する芸術家である日本画家の平山郁夫氏、彫刻家の佐藤忠良氏、陶芸家の樂吉左衛門氏の作品を擁する美術館として、さまざまな文化事業を通じて芸術・文化の振興と発展に少しでも貢献できればと願っております。

出会いをもとめて地域社会をはじめ広く世界に開かれた美術館を目指してまいります。

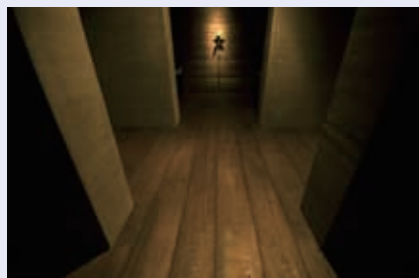
\*「守破離」— 千利休の「規矩作法 守りつくして 破るとも 離るとても 本をわするな」から来た言葉。

### 施設案内

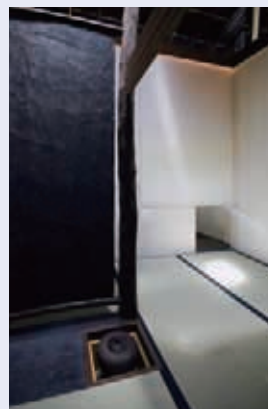
開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
 休館日：毎週月曜日（祝日にあたる場合はその翌日）、年末年始  
 ※展示替えのため、臨時休館する場合がございます。  
 料金：一般1,000円／高大生600円／  
 中学生以下無料 ※ただし保護者の同伴が必要。  
 団体（20名様以上）は200円引き致します。  
 駐車場：有70台、美術館入館者は駐車料無料  
 茶室見学：事前予約制（077-585-7806）  
 入館料別途、お一人様1,000円  
 ※実施日等、詳しくはお問い合わせください。



樂吉左衛門館外観



展示室



茶室 小間「盤陀庵」

樂吉左衛門館では、毎年企画展「吉左衛門X」を開催しています。展覧会「吉左衛門X」は、樂吉左衛門作品と樂氏が関わる何らかの事象Xとの関係性を解き明かす展覧会、吉左衛門氏とXのコラボレーションです。樂氏が深く影響を受けたもの、思惟を共有するもの、共感、感動、関数Xは今後さまざまに変容してゆきます。

### ギャラリー トーク

佐川美術館  
学芸員 松山早紀子

樂吉左衛門館は、水庭に敷設された展示室と茶室で構成されています。設計の創案は樂吉左衛門氏。作家自身が自らの作品と茶の湯空間を演出するユニークな美術館です。地下1階、地下2階、総面積2447㎡、6室に分かれる展示室は全て水庭の下に埋設、一室ごとに異なる個性を持つ空間として演出され、作品と空間がゆったりと響き合います。また、これまでにない新しい考えで建てられた茶室は、水没する小間と水上に浮かぶ広間を中心に構成、まさに水に浮かぶ「異空間」となっています。樂焼は桃山時代、茶の湯の大成者千利休の理想とする茶碗を初代長次郎が形にしたことにはじまり、当代吉左衛門氏は樂家15代の当主です。伝統の規範性に根ざした精神とその規範を打ち破り激しい創造性を開示しつつ変貌する吉左衛門作品の世界は、まさに「守破離」の精神そのものです。当館では、主に2000年以降に作陶された焼貫黒樂茶碗や黒樂茶碗、焼貫茶入、焼貫水指などの作品のほか、2007～2010年にフランスで制作された茶碗や花入など、常に現在進行形の樂吉左衛門作品をご覧いただけます。水面下の非日常に身を委ね、当代樂吉左衛門作品の魅力を感じていただければ幸いです。



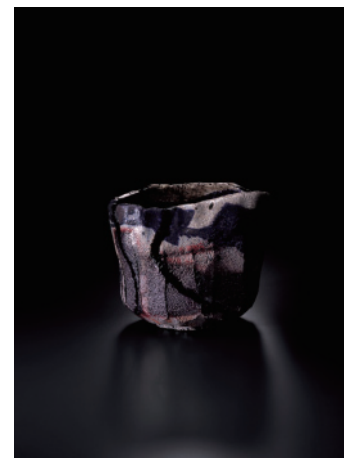
黒樂茶碗 銘 是時風雨過 2007年



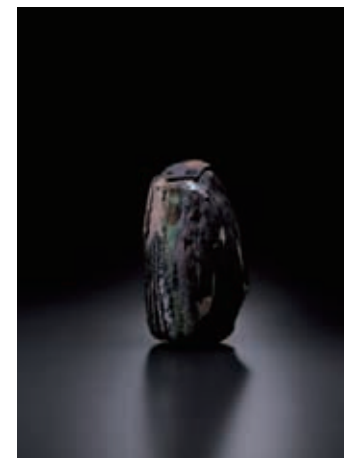
焼貫黒樂茶碗 銘 風舟 2003年



焼貫黒樂茶碗 銘 海市 2003年



焼貫黒樂茶碗 銘 飛空作雨聲 2006年



焼貫茶入 2006年



焼貫水指 2007年

出典：佐川美術館

### 主な収蔵品

黒樂茶碗	銘 春江	2001年	焼貫黒樂茶碗	銘 雨已過	2006年
黒樂茶碗	銘 梅花の蝶	2001年	焼貫黒樂茶碗	銘 飛空作雨聲	2006年
黒樂茶碗	銘 関山月	2004年	赤樂茶碗	銘 桃花潭	2007年
黒樂茶碗	銘 噴壺	2004年	赤樂茶碗	銘 煙柳	2007年
黒樂茶碗	銘 月夜行	2006年	赤樂茶碗	銘 蕎麦花	2007年
黒樂茶碗	銘 是時風雨過	2007年	フランスRAKU 茶碗	銘 En rêve	2007年
黒樂茶碗	銘 玄牛	2009年	フランスRAKU 茶碗	銘 Après Averse	2007年
焼貫黒樂茶碗	銘 篠舟	2002年	フランスRAKU 茶碗	銘 La prune précoce	2007年
焼貫黒樂茶碗	銘 風舟	2003年	焼貫茶入		2006年
焼貫黒樂茶碗	銘 海市	2003年	焼貫水指		2007年
焼貫黒樂茶碗	銘 水国潤煙	2003年	焼縮花入		2007年
焼貫黒樂茶碗	銘 葦舟	2004年			

※全て樂吉左衛門造

# 彦根城博物館

〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町1-1  
TEL.0749-22-6100 FAX.0749-22-6520  
URL <http://longlife.city.hikone.shiga.jp/museum/>

**アクセス** ■JR東海道本線彦根駅下車、徒歩15分  
■JR新幹線米原駅から、東海道本線(琵琶湖線)京都方面行きに乗り換え、次の彦根駅下車、徒歩15分  
■近江鉄道彦根駅下車、徒歩15分  
■名神彦根インターから車で10分 ※駐車場有料



彦根城博物館は、国の特別史跡・彦根城跡に位置し、彦根城表御殿を復元した荘重な外観を誇ります。収蔵資料は、国宝・彦根屏風をはじめ、重要文化財4件を含む総計約8万余件。その核は、江戸時代、譜代大名筆頭の家格を誇った彦根藩井伊家に伝来した武器武具、能道具、茶道具、調度、書画などの大名道具と、豊富な古文書資料です。

展示は、80点あまりの作品を分野ごとに紹介する常設展と、期間ごとに内容を変えて紹介する企画展やテーマ展を行っています。また、藩主の居室、庭園、茶室など、御殿の奥向きを、豊富な資料をもとに詳細に再現した木造復元棟は、藩主の生活空間を体感できるスペースです。

常設展「数寄の世界」では、茶入、茶碗、花生など、井伊家の家格にふさわしく多彩に取り揃えられた茶道具の数々を、年11回の展示替でローテーションを組んで展示します。大名の通例に倣い、井伊家の当主は代々、茶の湯を嗜みとしましたが、とりわけ13代直弼は、嗜みという域を越えて力を注ぎ、近世後期の大名茶人として注目される人物です。常設展の一角に「井伊直弼と茶の湯」のコーナーを設け、彼の思想や創作の独自性を読み解く展示を行っています。他に、藩窯のやきもの「湖東焼」を展示し、繊細優美な姿を紹介。また、2011年度は、テーマ展「藍の彩り-染付の世界-」



彦根城博物館外観

(6/24~7/26)で、茶道具に関わる展示を行う予定です。

大名道具や古文書など、多くの「ほんもの」との出会いを通じて、彦根に育まれた豊かな歴史と文化をご堪能頂ければ幸いです。

### 施設案内

休館日：12月25日(日)~12月31日(土)  
(このほか展示替期間中は一部の展示室を閉室)  
開館時間：午前8時30分~午後5時  
(入館は午後4時30分まで)  
拝観料：一般 500円 小・中学生 250円  
※彦根城博物館・彦根城・玄宮園のセット券は一般1000円、小中学生350円です。  
※30名以上の団体には観覧料の割引があります。  
※展示替期間(月3日程度)は観覧料が変更になります。  
※伝統芸能に関する事業に、能舞台や木造棟などの施設をご利用いただけます。



茶室「天光室」



茶の湯の展示コーナー



能舞台

### ギャラリートーク

彦根城博物館  
学芸史料課

当館の収蔵品の中でも、井伊家随一の家宝「大名物 宮王肩衝茶入」は、茶の湯の世界で広く知られる名品です。千利休の謠の師、宮王三郎鑑氏が所持したことからの命名で、諸氏を経て豊臣秀吉の手に渡り、大坂夏の陣での大坂城落城の際に徳川家康の所有となり、めざましい功績を挙げた井伊家2代直季が拝領しました。他に、武家の茶の湯に大きな影響を与えた片桐石州自作の竹花生や、直弼自筆の茶書や手製の茶道具など、井伊家ならではの茶道具が伝わります。

茶道研究の上でとりわけ注目されるのは、直弼自筆の茶書「茶湯一会集」です。「一期一会」「独座観念」などの言葉を用い、茶の湯における主客の交わりについて述べたもので、精神的側面を大切に直弼の深い思想が綴られています。

当館では、茶道具そのものの造形だけでなく、伝来の過程を示す書付、茶書や茶会記などの豊富な文書資料を通して、茶の湯のさまざまな魅力に触れる展示をお楽しみ頂けます。



大名物 宮王肩衝茶入



国宝 彦根屏風



梅花文天目茶碗



「茶湯一会集」井伊直弼筆

### 主な収蔵品

◎国宝 ○重要文化財

#### 【絵画】

◎彦根屏風  
四季図

#### 【工芸品】

大名物 宮王肩衝茶入  
森本文琳茶入  
古瀬戸肩衝茶入 銘夏山  
古天明責紐釜  
禾目天目茶碗  
梅花文天目茶碗  
瀬戸鉄釉茶碗 銘えぼし  
青磁香炉

江戸時代  
中国・明時代  
中国・宋時代  
中国・宋時代  
室町時代  
室町時代  
中国・宋時代  
中国・宋時代  
桃山時代  
中国・明時代

交趾荒磯文香合  
竹寸切花生 片桐石州作  
竹茶杓 銘 山時雨 小堀政尹作  
◎我宿蒔絵硯箱  
黒楽四方手付茶入 井伊直弼作  
◎太刀 銘国宗  
朱漆塗燵草威縫延腰取二枚胴具足  
能面 獅子口  
箆簀 銘碎玉

#### 【文書】

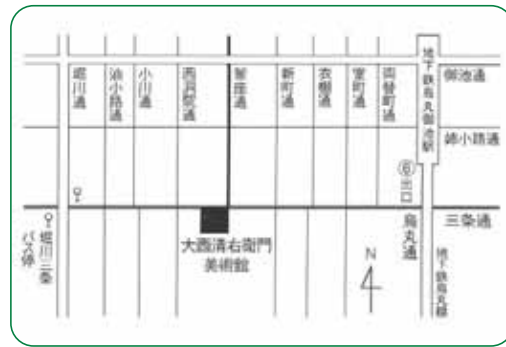
◎茶湯一会集 井伊直弼筆

中国・明時代  
江戸時代  
江戸時代  
室町時代  
江戸時代  
鎌倉時代  
桃山~江戸時代  
室町時代  
鎌倉時代  
江戸時代

# 大西清右衛門美術館

〒604-8241 京都市中京区三条通新町西入ル釜座町18-1  
TEL.075-221-2881 FAX.075-211-0316  
URL <http://www.seiwemon-museum.com>  
E-mail [webmaster@seiwemon-museum.com](mailto:webmaster@seiwemon-museum.com)

**アクセス** ■京都市営地下鉄丸御池駅⑥出口から三条通りを西へ徒歩7分  
■京都市バス9・12・50・67系統堀川三条バス停から三条通りを徒歩5分



## ギャラリー トーク

大西清右衛門美術館  
学芸室 山下絵美

茶の湯釜は、茶を点てるための湯を沸かす道具です。「一室の主人公」ともいわれ、茶室に不可欠な道具のひとつです。鉄を素材とし、鋳物により形づけられます。60を超える制作工程を経て完成した茶の湯釜は、茶人のもとで愛用され、数十年、数百年の時間を重ねるうち、鉄ならではの味わいを見せてゆきます。  
茶の湯釜の見どころはさまざまです。全体の姿はもちろんのこと、肌・文様・鑲付・蓋の職などの各所の意匠、茶室のなかでの佇まい、湯が沸き立つ音、他の道具との取り合わせ、そして独特の朽ちた趣き…。ほのかな光のなかに浮かびあがる釜の表情は、厳かさや静寂さを湛え、とても魅力的です。  
茶室に釜は一つ。ただし当館の展示室では、いくつもの釜を見くらべて鑑賞していただくことができます。まずは何より、茶の湯釜にはたくさんの種類があること、そこには豊かな表現が凝らされていることを楽しんでいただきたいと思います。茶の湯釜をより身近に親しむための鑑賞会なども行っています。ぜひお気軽にお越しください。

大西清右衛門美術館は、約四百年にわたり「茶の湯釜」の伝統と技を守り続ける釜師・大西家に伝わる茶の湯釜をはじめとする茶道具類を公開する美術館です。

美術館が位置する京都・三条釜座は、平安初期以来の由緒ある鋳物町。かつて多くの釜師が軒を連ねたこの地では、大西家を含む二軒が現在も釜づくりを行っています。

大西家は、茶道・三千家出入りの職家「千家十職」の一。古田織部や織田有楽などの武家茶人に向く釜を手がけた初代浄林・二代浄清兄弟を礎とし、千家の出入り方となる六代浄元を経て今日に至るまで、じつに十六代の歩みを重ねています。

美術館は、十五代浄心の構想をもとに1998年（平成10年）開館。当代大西清右衛門が館長を務めています。

収蔵される作品は、大西家歴代の手になる茶の湯釜を中心に、西村道仁・辻与次郎・名越浄味など、桃山～江戸期に釜座で活躍した釜師の作や、その源流ともなる芦屋釜・天明釜など日本各地の作、歴代の用いた釜の下絵・木型や釜座ゆかりの古文書のほか、種々の茶道具を収蔵、公開しています。

企画展は春・秋季の年に二回開催。会期中には茶席を設けているほか、収蔵品の茶道具を使い、館長が席主をつとめる『京釜特別鑑賞茶会』や、



美術館外観

学芸員の解説のもと、茶の湯釜の名品をじかに手にふれながら楽しむことのできる『京釜鑑賞会』、親子で参加することのできる『親子で学ぼう！茶釜と体験茶会』、時々の企画展をテーマにした『京釜文化講演会』などのイベントを開催しています。

茶の湯釜に関する研究と発表のための開かれた場であること、そして茶の湯釜の伝統と奥深い魅力を広く発信し、後世に伝える場となることを願い、活動を続けています。



蓬萊山釜 西村道仁作



大阿弥陀堂釜 辻与次郎作



笠釜 初代浄林作



鶴ノ釜 二代浄清作



雪花釜 十三代浄長作



東山魁夷下絵 松地文真形釜  
唐銅朝鮮風炉添

### 施設案内

開館期間：春季企画展・秋季企画展開催時 ※夏・冬季は休館  
開館時間：午前10時～午後4時30分（入館は4時まで）  
休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）／夏・冬季  
入館料：一般800(700)円／大学生500(400)円 ※( )は20名以上の団体  
入館無料：高校生以下／障害者手帳所持者と介添者1名まで  
茶席（茶菓子+抹茶）：一客様500円 ※団体の場合は要予約

出典：大西清右衛門美術館



展示室



七階庭露地



七階茶室「弄鋳軒」

### 過去の企画展テーマ

「釜師 大西家歴代」「文様からみる茶の湯釜」「吉祥の茶道具」「風炉を楽しむ」「寺院ゆかりの茶ノ湯釜」「春陽のたより」「浄林・浄清とその時代」「四季のめぐりと茶の湯釜」「茶ノ湯釜にみる朽ちの美」「釜のかたち」「国立民族学博物館共催企画 千家十職×みんぱく 釜師大西清右衛門の目」「清游の茶道具」「茶人と釜」「秋麗によせて」ほか

### 主な収蔵品

#### 【釜】

芦屋 山二鹿帆掛舟地文真形釜	三代浄玄作 透木釜
芦屋 夕顔地文真形釜	五代浄入作 海松貝地文四方覆垂釜
天明 播知釜	六代浄元作 鶴首釜
西村道仁作 蓬萊山釜	七代浄玄作 唐犬釜
辻与次郎作 大阿弥陀堂釜	八代浄本作 丸形釜
西村九兵衛作 蒲団釜	九代浄元作 鐵道安風炉
北向道陳所持 唐銅琉球風炉	十代浄雪作 二口釜
初代浄林作 霰乙御前釜	十一代浄寿作 肩衝透木釜
初代浄林作 笠釜	十二代浄典作 宝珠釜
二代浄清作 鶴ノ釜	十三代浄長作 雪花釜
二代浄清作 狩野探幽下絵 鶯地文撫肩釜	十四代浄中作 竹内栖鳳風下絵 笹地文万代屋釜
	十五代浄心作 東山魁夷下絵 松地文真形釜 唐銅朝鮮風炉添

# 表千家北山会館

〒603-8054 京都市北区上賀茂桜井町61番地  
TEL.075-724-8000 FAX.075-724-8007  
URL <http://www.kitayamakaikan.jp> E-mail [kitayamakaikan@omotesenke.jp](mailto:kitayamakaikan@omotesenke.jp)

**アクセス** JR京都駅より/地下鉄烏丸線 国際会館行「北山駅」下車4番出口を出て西へ徒歩5分/タクシー約30分  
■阪急電車烏丸駅より/地下鉄烏丸線 国際会館行乗り換え「北山駅」下車  
■京阪電車三条駅より/地下鉄東西線 太秦天神川行き乗り換え「烏丸御池駅」下車し、烏丸線 国際会館行乗り換え「北山駅」下車  
■京阪電車出町柳駅より/タクシー約15分



## ギャラリー トーク

21世紀に伝える日本の伝統に思いをはせ、現代に生きる茶の湯文化の再発見という視点から、毎年秋に新しい切り口で茶の湯文化を紹介する特別展をおこなっています。一例として、昨年の平成22年に催した「樂家の茶碗—極められた赤と黒の美—」展では、千利休がわび茶の理想を伝え樂長次郎に焼かせた、いわば茶人がはじめてデザインをした茶の湯の茶碗、樂茶碗という視点で展覧しました。400年に及ぶ表千家歴代の家元と樂家の歴代との交流を下敷きに、樂茶碗の発生と展開をご覧いただきました。長次郎より15代吉左衛門氏にわたる歴代の作品に歴史的背景が加味され、より深い理解が得られたかと思えます。

茶の湯文化は日本人の心に多くのものを伝えていきます。茶道具を通して、その用と美だけにおさまらない種々な側面をクローズアップする展覧を企画開催してまいります。

表千家北山会館は、社団法人表千家同門会発会50周年を記念して、ひろく市民の皆様々に気軽に茶道文化にふれていただくことを目的に、平成6年4月に開館しました。約200名収容の「清友ホール」を擁し、展示室・立礼席・呈茶ロビー、大小の研修室があります。常設展期間は展示室に表千家に伝来する茶の道具を展示しており、3階研修室では、お茶の文化にまつわる映像資料を上映しています。様々な分野の専門家を招いての「公開文化講座」なども開催しています。

毎年秋には、特別展を開催しています。会期中には「茶の湯文化にふれる市民講座」を催しています。常設展・特別展いずれも、2階呈茶ロビーにて一服の薄茶をさしあげています。

緑に囲まれた表千家北山会館で移りゆく季節を感じ、茶の湯の世界にふれてみるのはいかがでしょう。

詳しくはホームページをご覧ください。



北山通りから見た外観

### 施設案内

- 入館見学及び各種講演会 参加について
- ◇開館時間は9時30分～16時30分（入館は16時まで）
- ◇常設展期間は日曜・祝日休館
- ◇特別展・企画展会期中は月曜日休館
- ◇特別展の入館料は、一般1000円、学生（大学生・高校生）800円、団体（20人以上）800円、中学生以下無料です。
- ◇常設展入館については、展示内容のご確認など事前に会館までお問い合わせください。
- ◇「茶の湯文化にふれる市民講座」「公開文化講座」は先着順で参加を受け付けます。
- ◇駐車場は20台



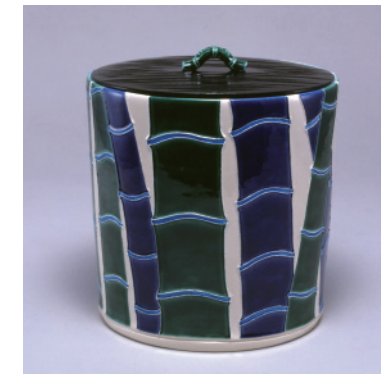
地階 清友ホール



即中斎筆 一行「山水有清音」



鶴ノ絵 而妙斎筆「千年松」ノ文字 丸釜 花押鑄込み 大西浄心作（反対側に鶴ノ絵）



而妙斎好 交趾 竹水指 永樂善五郎造 蓋 飛来一閑



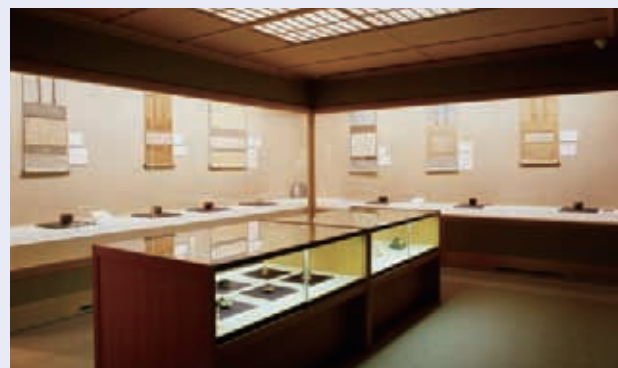
葵御紋金欄手茶碗 永樂保全造



即中斎手造 黒茶碗 銘 雪間草



而妙斎好 松鶴龜ノ絵 溜雪吹 中村宗哲作



2階 展示室



呈茶ロビー



平成22年秋 特別展「樂家の茶碗—極められた赤と黒の美—」3階 展示会場



平成22年秋 「茶の湯文化にふれる市民講座」清友ホール

# 北村美術館

〒602-0841 京都市上京区河原町今出川通下一筋目東入  
TEL.075-256-0637 FAX.075-256-2478

**アクセス** ■京阪電鉄「出町柳駅」徒歩10分  
■京都市営地下鉄烏丸線「今出川駅」徒歩20分



## ギャラリー トーク

北村美術館  
学芸員 池田 忍

当館の建つ一帯の土地は、江戸時代前期、女帝明正上皇が離宮を営まれた鴨川沿いの一角を占める景勝の地です。上皇の後は、後陽成天皇の皇子常修院宮慈胤法親王がこの地に比叡山延暦寺の三門跡の一つ梶井宮（現在の三千院）の里房を建てて住まれた旧跡でもありまして、「梶井町」という現在の町名に歴史の由緒をとどめています。当館に隣接する四君子苑からは、8月16日夜の送火で名高い「大文字」を正面に眺めることができます。50点を超える石造美術品が配置されており、そのなかには重要文化財3点を含む名品の数々があります。美と歴史的由緒に恵まれた環境のなかで心ゆくまで茶道美術品を味わっていただけたところがまた当館の特色であります。

北村美術館は昭和52年10月に開館しました。爾来、毎年春と秋の二季、特別展を催しています。また、ときには臨時の展示も催し、所蔵品の積極的な公開をはかっています。春季の特別展は3月から6月の間、秋季のそれは9月から12月にかけて催するのが恒例です。

当館の設置者は北村文華財団ですが、これは文部大臣の認可を得て昭和50年3月設立された財団法人で、美術館の運営にあたるほか、茶道文化の学問的研究も事業に加え、茶道文化の発展に寄与することを目指しています。これまで大徳寺・妙心寺の諸塔頭に伝わる初期茶道美術品の調査、高橋箒庵文庫（慶応大学内）諸文献の複写および加賀藩前田家旧蔵の名物裂織技に関する研究等を実施してきましたが、これらは京都国立博物館の多大なご協力のあった賜物です。

所蔵品はすべて財団の初代理事長であり、美術館の館長でもあった故北村謹次郎氏自身の蒐集品であります。氏は半世紀をこえる長い年月をかけて茶道美術品の蒐集に精魂を傾けましたから、美術品には全生涯を茶の湯に捧げた数奇者の面目がいかに反映していますし、その展示には氏の茶風が豊かに表現され、氏の催す茶会の雰囲気も味わっていただけるのが当館の展示の趣向です。



北村美術館 外観

### 施設案内

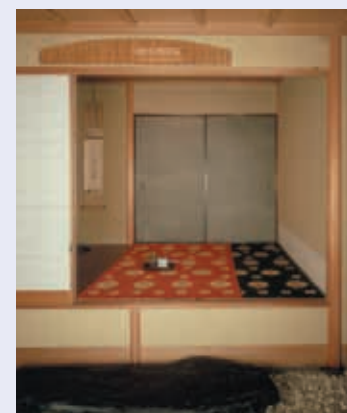
開館時間：午前10時より午後4時迄です  
休館日：展示期間中は原則として月曜日と祝日の翌日、詳しくは予めお尋ね下さい  
入館料：一般600円／学生400円  
(30人以上団体割引があります)



左入作 赤染茶碗 銘「吉野」  
(平成23年春季特別展 展示)



茶席 珍散蓮 手前座



四君子苑(国の登録文化財) 寄付の席

### 当館の設備

表 玄関：屋外の階段を登って正面玄関を入ります。2階にはホール、応接室、事務室、トイレの設備があります。  
展 示 室：2階ホールから廊下沿いに奥へ入ると3階へ上がる階段・エレベーターがあります。展示室には椅子も用意してありますが、喫煙や談話は2階ホールでお願いします。展示室は喫煙・写真撮影は厳禁です。  
身体障害者用入口：1階屋外通用門のインターホンで入館される旨をお伝え下さい。車椅子のままエレベーターで展示室に入れます。1階ホールの隣に身障者用トイレを用意しています。

### 主な収蔵品

中心は茶道美術品ですが、その内容は絵画・書蹟・彫刻・木工・陶磁・金工・漆工・染織・人形等多岐にわたります。そのなかには重要文化財33点・重要美術品9点など美術的にも歴史的にも価値の高い優品が数多く含まれています。

佐竹本三十六歌仙絵・蕪村鶯鴉図・大字朗詠切・熊野懐紙・後深草天皇消息・螺鈿経箱・夕顔蒔絵硯箱・中尊寺経・宝塔経切・広沢切・金銅火舎華瓶等密教法具・高砂手花生・漆絵瓶子・伝護良親王消息・東大寺伝来黒漆胡胴・石山切・本阿弥切・藤原家隆消息・東大寺伝来練行衆盤・高麗古雲鶴正田筒茶碗・織部松皮菱手鉢・仁清鱗波文茶碗・古天命碎銭釜等がその一部です

が、そこには日本はもとより中国・朝鮮・東南アジア・ヨーロッパなど世界各地の美術品が含まれています。

# 相国寺承天閣美術館

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701相国寺  
 TEL.075-241-0423 FAX.075-212-3585  
 URL http://www.shokoku-ji.or.jp  
 E-mail jotentaku-1@shokoku-ji.or.jp

**アクセス** ■JR京都駅より京都市営地下鉄今出川駅下車3番出口より徒歩8分  
 ■阪急電車烏丸駅より京都市営地下鉄今出川駅下車3番出口より徒歩8分  
 ■京阪電車出町柳駅3番出口より徒歩20分/市バス201・203号系統同志社前下車徒歩6分



## ギャラリー トーク

相国寺承天閣美術館  
事務局長 鈴木景雲

当館は禅宗美術を中心に展覧しており、常に鎌倉から南北朝、室町、桃山、江戸時代の墨蹟、絵画と茶道具を展示しております。  
 第1展示室には「夕佳亭」の複製を常設展示しております。「夕佳亭」は鹿苑寺（金閣寺）境内に建つ茶室です。相国寺第95世鳳林承章と親交のあった金森宗和の好みで、江戸前期に成ったとされております。眼下の金閣が夕日を受けて輝く景色が「夕佳に佳い」ということから誰とはなしに呼ばれるようになったようです。内部には常時茶道具を展示しており、立体感あふれる茶室の醍醐味を満喫していただけます。  
 第2展示室には、近世京都画壇の奇才伊藤若冲が彩管を揮った水墨画の大作、重要文化財・鹿苑寺大書院旧障壁画50面の内「葡萄小禽図床貼付」と「月夜芭蕉図床貼付」を常設展示しております。若冲が鹿苑寺にこの作品を描くことになった機縁は、相国寺第113世梅莊頭常（大典禪師）と交流があったことからです。その大典の弟子龍門承猷が、宝暦9年（1759）に鹿苑寺第7世住持になった折、その記念に、大典の斡旋で襖絵50面（松鶴図、芭蕉吟々鳥図、菊鶏図、竹図、双鶏図等）が、若冲によって描かれました。これらは水墨画の分野において全く独創的境地を確立したとされる若冲の傑作として声価の高いものです。

相国寺（正式名称・萬年山相国寺承天禅寺）は、明徳3年（1392）に夢窓疎石を開山とし、室町幕府第三代将軍足利義満によって創建された臨済宗相国寺派の大本山です。京都五山の第2位に列せられ、絶海中津や横川景三といった五山文学を代表する僧侶や、如拙・周文・雪舟らの日本水墨画の規範を築いた画僧を多く輩出し、地理的にも、文化的にも京都の中心に在り続けてきました。このような600余年の歴史により、中近世の墨蹟・絵画・茶道具を中心に多数の文化財が伝来しています。去る昭和59年4月、相国寺創建600年記念事業の一環として本山相国寺・鹿苑寺（金閣寺）・慈照寺（銀閣寺）・他塔頭寺院に伝わる美術品を受託し、保存及び展示公開、修理、研究調査、禅文化の普及を目的として当館が建設されました。現在では、国宝5点、重要文化財143点を含む多くの優れた文化財が収納されており、様々な展覧を行っています。

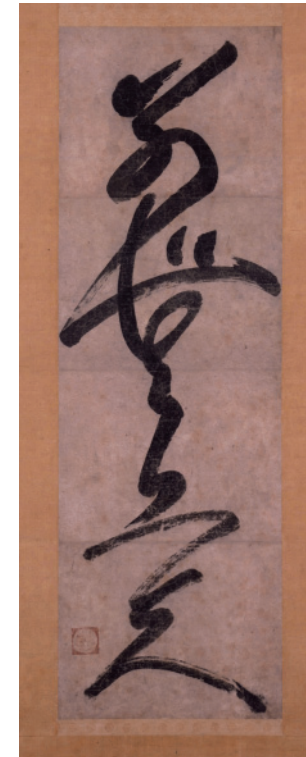


承天閣美術館 玄関

第1展示室には、鹿苑寺境内に建つ金森宗和造と伝えられる「夕佳亭」を復元し、第2展示室には近世京都画壇の奇才、伊藤若冲による水墨画の傑作である重要文化財「鹿苑寺大書院旧障壁画」の1部を移設しており、古刹の境内の静謐な空間で、間近に作品をご鑑賞いただけます。皆様のご清覧をお待ちしております。

### 施設案内

講堂：講演会、研修会などにご利用いただけます。  
 茶室夢中庵：茶会などにご利用いただけます。  
 開館期間：年中無休（ただし年末年始・展示替期間を除く）  
 開館時間：午前10時～午後5時（ただし入館は午後4時30分まで）  
 拝観料：一般800円/65才以上・大学生600円/中・高生300円/小学生200円  
 一般20名以上は100円割引いたします。



夢窓疎石墨蹟 別無工夫



国宝 玳瑁蓋散花文天目茶碗



重要文化財 黄瀬戸大根文輪花鉦鉢



大名物 唐物茄子茶入 銘珠光（別名兵庫）

出典：相国寺



第一展示室内部（「夕佳亭」復元）



第二展示室内部  
（重要文化財「鹿苑寺大書院旧障壁画」）



第二展示室内部  
（重要文化財「鹿苑寺大書院旧障壁画」）

### 主な収蔵品

#### 【墨蹟】

- 無学祖元墨蹟 与長楽寺一翁偈語
- 夢窓疎石墨蹟 別無工夫
- 春屋妙葩墨蹟 応無所住而生其心
- 絶海中津墨蹟 十牛頌
- 足利義満一行書 放下便是

#### 【絵画】

- 夢窓疎石頂相 自賛
- 足利義満肖像 飛鳥井雅縁賛
- 毘沙門天図 雪舟等楊筆
- 竹林猿猴図屏風 長谷川等伯筆
- 葛の細道図屏風 俵屋宗達筆

- 鎌倉
- 南北朝
- 南北朝
- 室町
- 室町

- 南北朝
- 室町
- 室町
- 桃山
- 江戸

●国宝 ○重要文化財 ○重要美術品

#### ●鹿苑寺大書院旧障壁画50面

- 伊藤若冲筆
- 江戸
- 【工芸品】
- 玳瑁蓋散花文天目茶碗 吉州窯
- 赤楽茶碗 加賀
- 黒茶碗 楽長次郎造 宗旦・直斎箱書
- 鏤絵寒山拾得図茶碗
- 大名物 唐物平手肩衝茶入
- 大名物 唐物茄子茶入 銘珠光（別名兵庫）
- 芦屋七宝文真形釜
- 緑釉四足壺
- 黄瀬戸大根文輪花鉦鉢
- 砧青磁荷花入
- 本阿弥光悦造
- 野々村仁清造
- 宋
- 桃山
- 桃山
- 江戸
- 宋
- 明
- 南北朝
- 平安
- 桃山
- 宋



# 茶道資料館

〒602-8688 京都市上京区堀川通寺之内上 裏千家センター内  
TEL.075-431-6474 FAX.075-431-3060  
URL <http://www.urasenke.or.jp/textc/gallery/tenji/index.html>

**アクセス** ■ JR京都駅より 市バス9系統 堀川寺ノ内下車後、徒歩2分  
■ 阪急大宮駅より 四條堀川から市バス9、12系統 堀川寺ノ内下車後、徒歩2分  
■ 京阪出町柳駅より 市バス201、203系統 堀川今出川下車後、堀川通東側を北へ徒歩10分  
■ 地下鉄烏丸線より 鞍馬口下車 西へ徒歩15分  
■ 地下鉄東西線より 二条城前駅より市バス9、12系統 堀川寺ノ内下車後、徒歩2分



**裏千家15代家元「鵬雲斎千玄室の茶」 平成23年4月9日(土) - 9月19日(月・祝)**

裏千家15代家元鵬雲斎千玄室は、4月19日に米寿を迎えます。これを祝い、自作や好み物の茶道具を展覧します。大正12年(1923)、14代無限齋の嫡男として誕生した鵬雲斎は、昭和39年(1964)に15代家元を継承。「一碗からピースフルネスを」の理念を提唱し、国内をはじめ世界60ヶ国以上で茶道の普及と発展に尽力してきました。海外への茶道普及の先駆けとして、自ら赴くだけでなく多くの茶室を寄贈し、茶道の拠点作りをしてきました。平成14年(2002)、坐忘齋家元に代を譲った後も、日本文化の普及と世界平和の実現に向けて、さらなる活動を展開しています。この度の米寿記念展では、自筆の掛物や、自作の茶杓や茶碗、好み物をはじめ、絵画や美術工芸品などのコレクションの展覧を通じて、鵬雲斎の足跡を紹介致します。(会期中陳列替を行います)

平成21年に開館30周年を迎えた茶道資料館は、年4～5回、茶道に関する様々な視点での企画展を催し、茶碗、花入、掛物などの茶道具の名品や美術工芸品を分かりやすく展示しています。展示会期中には講演会や関連講座などを開催し、流派を問わず全国の茶道愛好家から大きな関心が寄せられています。展示室内は、広くすっきりしており、2階陳列室には茶室「又隠」(重要文化財)のうつしが設けられ、茶室内を見ることができます。又隠は草庵風四畳半の茶室で、今日庵と並び裏千家の代表的な茶室です。

入館者には呈茶があり、季節の和菓子とお抹茶を一服差し上げております(10時～16時)。

展示期間中、初めての方のための茶道体験コーナーを設けています。体験内容は、いすに座る立礼で、挨拶の仕方やお菓子の食べ方、お茶の飲み方、お茶の点て方などを体験することができます。講師によるやさしい指導のもと、全く初めての方でも大丈夫。地域の方をはじめ、全国の修学旅行生、国内外から京都観光に訪れる旅行者に好評となっています。展示期間中の10・11・13・14・15時から1回約1時間 12名まで。1週間前までに要電話予約。体験料は入館料のみです。



裏千家センター

### 施設案内

開館時間：9時半～16時半(入館と呈茶は16時迄)  
休館日：月曜・年末年始・展示替期間  
入館料：通常展 一般500円(450円)・大学生400円(350円)・中高生300円(250円)  
\*特別展は別途  
\*( )内は20名以上の団体割引料金  
\*小学生以下と茶道資料館メンバーシップ校(市内16大学)の学生・生徒・教職員は無料  
\*メンバーシップ加入校一覧(加入順)  
【(学)京都造形芸術大学、(学)立命館、(学)光華女子学園、(学)京都学園、(国)京都大学、(国)京都工芸繊維大学、(学)同志社、(学)ノートルダム女学院、(国)京都教育大学、(学)平安女学院、(学)佛教大学、(学)京都文教学園、(学)花園学園、(学)京都精華大学、(公)京都府立医科大学、(公)京都府立大学】



今日庵文庫



呈茶



茶道体験

今日庵文庫(こんにちあぶんこ)は、昭和44年、鵬雲斎大宗匠により歴代家元の収集になる茶道関係文献を基に、研究・保存機関として設置。茶道関係の図書や雑誌約55,000冊を収蔵しています。開架閲覧室には茶道図書、参考図書、雑誌のほか、ビデオシステムを備え、貴重図書を除き、館内でのみ自由に閲覧できます。(貸出不可。開館時間：平日10～16時・土曜10～15時、休館日：日・祝、第2・4土曜、年末年始、入館料無料) Tel.075-431-3111(代)



竹茶杓 銘明歴々 鵬雲斎作



一行「富貴は吉祥」 鵬雲斎筆



金欄手菊絵皆具 鵬雲斎好 永樂即全作



鳳凰蒔絵黒平棗 鵬雲斎好 11代中村宗哲作

### 上記展覧会の主な展示品

一行「富貴は吉祥」	鵬雲斎筆	竹茶杓 銘明歴々	鵬雲斎作
一行「桃花笑春風」	鵬雲斎筆	竹茶杓 銘葉光	鵬雲斎作
夕顔蒔絵竹香合	鵬雲斎好 12代黒田正玄作	赤楽茶碗 追銘破草鞋	無限齋作 鵬雲斎追銘
桐の釜	鵬雲斎好 大西浄心作	紫鳳凰絵茶碗	鵬雲斎好 永樂即全作 紫綬褒章受章記念
雲浪釜	鵬雲斎好 13代宮崎寒雉作	南嶺風来建水	鵬雲斎好 11代中川浄益作 ほか
金欄手菊絵皆具	鵬雲斎好 永樂即全作	銀杏棚	鵬雲斎好 14代駒沢利斎作
交趾ツボツボ紋皆具	鵬雲斎好 永樂即全作	鳳凰絵板文庫	鵬雲斎好 前端雅峯作
赤楽水指	鵬雲斎作 15代樂吉左衛門焼 蓋 12代中村宗哲作		
金叩蘭花水指	鵬雲斎好 4代宮川香斎作		
牡丹唐草絵黒中棗	鵬雲斎好 14代飛来一閑作		
鳳凰蒔絵黒平棗	鵬雲斎好 11代中村宗哲作		

\*作品と、鵬雲斎の足跡を紹介した図録「裏千家15代家元 鵬雲斎千玄室の茶」を当館受付で販売致しております。

# 公益財団法人 野村美術館

〒606-8434 京都市左京区南禅寺下河原町61 TEL.075-751-0374 FAX.075-751-0586  
URL <http://www.nomura-museum.or.jp> E-mail [nomurams@nomura-museum.or.jp](mailto:nomurams@nomura-museum.or.jp)

**アクセス** ■(バ ス) 京都駅北口バスターミナルよりバス⑤番 [岩倉]行に乗り、「南禅寺・永観堂道」で下車、山側に向かって徒歩約5分。  
■(地下鉄) 地下鉄「京都駅」より烏丸線 [国際会館]行に乗り、「烏丸御池駅」で地下鉄東西線 [醍醐]行又は [浜大津]行に乗り換え、「蹴上駅」下車、①番出口を出て、南禅寺の北門を出た所まで、徒歩約10分。  
■(車) 名神高速道路「京都東インター」で降り、三条通りを蹴上まで西進、南禅寺に入り北門から出て下さい。



## ギャラリー トーク

野村美術館学芸部

京都東山の静かなただすまいのなか、日本や東洋の古美術を楽しんでいただけます。美術館周辺には、南禅寺・永観堂・法然院・銀閣寺などがあり、「哲学の道」を散策すれば、京都の四季を満喫することができます。

美術館1階には「立礼席」という茶席があります。畳の上に正座してではなく、椅子に腰掛けて、作法などは気にせず、気軽に抹茶と生菓子をお楽しみいただけるスペースとなっています。ここには掛物や花入、釜や茶碗などをしつらえ、展示室のようにガラスケース越しに美術品を鑑賞するのではなく、間近で美術品をご鑑賞いただけます。(但、入館料とは別料金。600円。)是非、展覧と合わせて立礼席もお楽しみ下さい。

野村美術館は、野村證券・野村銀行（現りそな銀行）など金融財閥を一代にして築き上げた二代目野村徳七（1878-1945）のコレクションをもとに、昭和59（1984）年に京都・東山山麓南禅寺畔に開館致しました。



美術館外観

二代目野村徳七は、得庵と号してさまざまな趣味に親しまいましたが、その中でも「茶の湯」と「能楽」に深く傾倒しました。そのため、コレクションは「茶の湯」と「能楽」に関する美術工芸品が主体となっています。

展示室は1階・地階の2フロアあり、1階展示室ではメイン展示の特別展を、地階展示室ではメイン展示とは別に、小テーマを設けて展示しています。「茶の湯」と聞けば、たいいてい人は「堅苦しい」「むずかしい」等と思われることが多いのですが、当館の展示は、茶の湯をされている方だけでなく、一般の方々にも美術品を楽しんでいただけるような展示を心がけています。是非お越し下さい。

現在美術館では、得庵が収集した茶道具・能面・能装束をはじめ、得庵の遺作も含めて約1500点を所蔵しています。その中には、重要文化財「伝紀貫之筆 寸松庵色紙」・「佐竹本三十六歌仙・紀友則」・「清拙正澄筆 秋来偈頌」・「宗峰妙超筆 白雲偈頌」・「雪村周継筆 風濤図」・「藤原定家・民部卿局両筆 讃岐入道集」・「千鳥蒔絵面箱」や、重要美術品「藤原基俊筆 多賀切」・「伝藤原行成・藤原公任筆 法華経断簡」・「後水尾天皇筆 消息」・「村田珠光筆 山水図」・「文茄茶入」・「ノンコウ作赤楽茶碗 銘 若山」・「与謝蕪村筆 草廬三顧・蕭何追韓信図屏風」・「能面 早苗尉」・「能面 竜女」など指定美術品も含まれています。

美術館では、得庵が収集した美術工芸品を、春季（3月上旬～6月上旬）と秋季（9月上旬～12月上旬）の年2回、毎回テーマをかえ、さまざまな展

### 施設案内

**開館期間** 春季（3月上旬～6月上旬）／ 秋季（9月上旬～12月上旬）  
**開館時間** 午前10時～午後4時半（※ご入館は午後4時まで。）  
**休館日** 開館中の月曜日（月曜日が祝日の場合は開館、翌火曜日が休館。）  
**料金** 一般700円／大・高生300円／中・小生200円／高齢者（70歳以上）500円  
一般20名以上は200円引き致します。  
**駐車場** あり。（但、5台まで。）  
駐車場が空いていない場合は、南禅寺有料駐車場に入れ、徒歩でおいで下さい（所要時間2、3分。）



重要文化財 伝紀貫之筆 寸松庵色紙



千利休筆 妙一字



重要美術品 村田珠光筆 山水図



砂張釣舟花入 銘 淡路屋舟



仁清 色絵菊花紋水指



上杉瓢箪茶入



練上志野茶碗 銘 猛虎

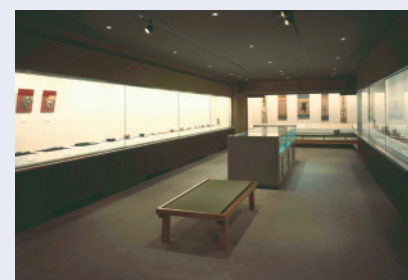


坂本井戸茶碗

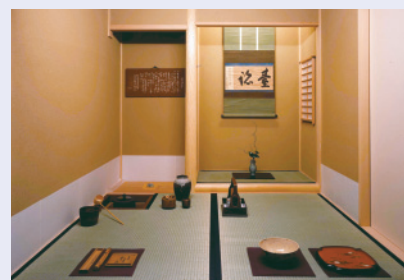


長次郎作 赤楽茶碗 銘 獅子

出典：公益財団法人野村文華財団 野村美術館



1階展示室



席飾



立礼席

**立礼茶席** ご利用料金は、抹茶・生菓子付で600円です。（※入館料とは別料金です。）基本的に午後4時で終了致します。但、お菓子がなくなり次第終了することもあります。詳細は、美術館までお問い合わせください。（※5名様以上ご利用の場合は、要予約。）

### 主な収藏品

◎重要文化財 ○重要美術品

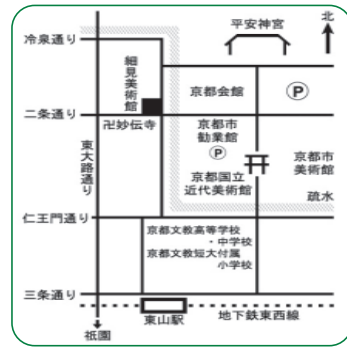
- ◎「伝紀貫之筆 寸松庵色紙」
  - ◎「佐竹本三十六歌仙・紀友則」
  - ◎「清拙正澄筆 秋来偈頌」
  - ◎「宗峰妙超筆 白雲偈頌」
  - ◎「雪村周継筆 風濤図」
  - ◎「藤原定家・民部卿局両筆 讃岐入道集」
  - ◎「千鳥蒔絵面箱」
  - 「藤原基俊筆 多賀切」
  - 「伝藤原行成・藤原公任筆 法華経断簡」
  - 「後水尾天皇筆 消息」
  - 「村田珠光筆 山水図」
  - 「文茄茶入」
  - 「ノンコウ作赤楽茶碗 銘 若山」
  - 「与謝蕪村筆 草廬三顧・蕭何追韓信図屏風」
  - 「能面 早苗尉」
  - 「能面 竜女」
- 千利休筆 妙一字 / 砂張釣舟花入 銘 淡路屋舟 / 仁清 色絵菊花紋水指 / 上杉瓢箪茶入 / 長次郎作 赤楽茶碗 銘 獅子 坂本井戸茶碗 / 練上志野茶碗 銘 猛虎 など

・古くより茶人たちに愛されてきた名物茶道具を多数所蔵しています。  
・能面、能装束のコレクションも日本有数のものとして知られています。

# 細見美術館

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3  
TEL.075-752-5555 FAX.075-752-5955  
URL <http://www.emuseum.or.jp>  
E-mail [hosomi@emuseum.or.jp](mailto:hosomi@emuseum.or.jp)

**アクセス** ■市バス「東山二条」下車 徒歩3分  
■市バス「京都会館美術館前」下車 徒歩5分  
■地下鉄東西線「東山」駅下車 徒歩10分



細見美術館は大阪の実業家、細見 良（初代 古香庵）にはじまる細見家三代の蒐集をもとに、平成10（1998）年、京都の文化ゾーン岡崎に開館しました。

日本の美術工芸のほとんどすべての分野・時代を網羅する収蔵品の中でも、平安・鎌倉期の仏教美術や神道美術、室町期の水墨画、根来や茶の湯釜、桃山期の屏風や茶陶、七宝工芸、そして琳派や若冲など江戸期の絵画というように、ほぼすべての時代、分野を網羅しています。こうしたコレクションは、時に日本美術の教科書とも称されています。当館ではこれらの美術品を、年間数回の企画展で様々な角度からご紹介しています。併せてセミナーやレクチャーを行うなど、日本美術・文化の普及にもつとめています。

さらに、館内には展示室のほか、オリジナルグッズをはじめとした和雑貨や美術関連の書籍が充実の「アートキューブショップ」、和のテイストを取り入れた空間にモダンなインテリアを配した「カフェ・キューブ」を併設するほか、数寄屋建築の名匠 中村外二氏の遺作、茶室「古香庵」も一般に公開。この茶室では、東山の山々を眺めながら薄茶と生菓子がお楽しみいただけるほか、四季折々に茶事・茶会なども催しています。

こうした様々な表情を持つ当館の建物は、建築家



美術館外観

大江匡氏の設計による地下二階地上三階の吹き抜けが特徴となっています。

## 施設案内

### 開館時間

#### 美術館・ショップ

：午前10時～午後6時（入館は、午後5時30分まで）

茶室：11時～17時（不定休）

カフェ：10時30分～18時30分（LO18時）

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

年末年始 展示替期間

入館料：一般 1,000円（800円）

学生 800円（600円）※（）20名以上の団体料金

駐車場：無（公共交通機関もしくは最寄りの有料駐車場をご利用ください。）



第二展示室



茶室外観



カフェキューブ

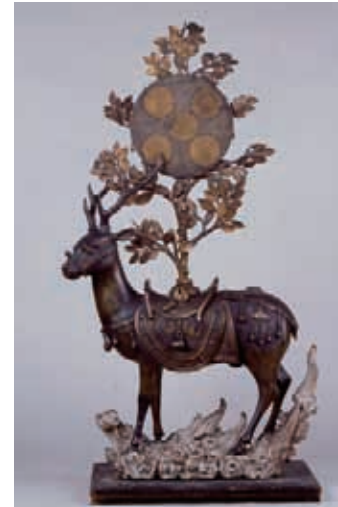
## ギャラリー

細見美術館  
主任学芸員 伊藤京子

細見美術館のコレクションは、時に日本美術の教科書と称されるように、さまざまな時代やジャンルを象徴する作品が比較的バランスよく収蔵されています。これらは初代古香庵をはじめとする細見家三代の日本美術に向けられた真摯な敬愛と情熱によって蒐集されてきました。

細見コレクション最大の魅力は、鑑賞する楽しさにあります。美術館開館以前より細見家には多くの研究者が作品の調査研究を許され、また内外の客人は、四季折々に邸内をかざる美術品を堪能することができました。こうした「もてなし」は、細見家三代の美術品本来の役割は心を楽しませ、和ませるものである、という強い思いの表れでもありました。

当館にご来館の際は、現代的な建物の中でコレクターの思い溢れる作品と対面し、是非お気に入りの一点を見つけていただければと思います。



重要文化財「金銅春日神鹿御正体」



伊藤若冲「糸瓜群虫図」



志野茶碗 銘「弁慶」



重要文化財「蘆屋葎地楓鹿図真形釜」



葛飾北斎「五美人図」



根来亀甲文平子

## 主な収蔵品

### 【彫刻・工芸】

- 菩薩立像
- 羽黒鏡
- 金銅透彫尾長鳥唐草文華鬘
- 金銅春日神鹿御正体
- 蘆屋葎地楓鹿図真形釜
- 根来亀甲文平子
- 夕顔文釘隠
- 流水蛇籠文釘隠
- 志野茶碗 銘「弁慶」

### 【絵画】

- 愛染明王像

- 平安前期
- 平安後期
- 鎌倉時代
- 南北朝時代
- 室町時代
- 室町時代
- 桃山時代
- 桃山時代
- 桃山時代

- 平安後期

- 豊公吉野花見図屏風
- 犬追物図屏風
- 伊勢物語図色紙「大淀」
- 柳図香包
- 雪中雄鶏図
- 桜に小禽図
- 五美人図

### 【書跡】

- 貫之集断簡「石山切」
- 明恵上人仮名消息

◎重要文化財 ○重要美術品

- 依屋宗達
- 尾形光琳
- 伊藤若冲
- 酒井抱一
- 葛飾北斎
- 明恵高弁
- 桃山時代
- 江戸前期
- 江戸前期
- 江戸中期
- 江戸中期
- 江戸後期
- 江戸後期
- 平安後期
- 鎌倉時代

やわたしりつしょうかどうていえん・びじゅつかん

# 八幡市立松花堂庭園・美術館

〒614-8077 京都府八幡市八幡女郎花43  
 TEL.075-981-0010 FAX.075-981-0009  
 URL http://www.yawata-bunka.jp  
 E-mail syojo@smart.interq.or.jp

**アクセス** ■京阪電車「八幡市」駅または「樟葉」駅からバス(約10分)「大芝松花堂前」停留所下車すぐ。  
 ■京都駅から近鉄電車「丹波橋」駅で京阪電車に乗り換え、「八幡市」駅からバス(約10分)「大芝松花堂前」下車すぐ。  
 ■JR学研都市線「松井山手」駅からバス(約15分)「大芝松花堂前」下車すぐ。



八幡市立松花堂庭園・美術館は、江戸時代初期に活躍した文人僧・松花堂昭乗(1582~1639)ゆかりの庭園・美術館です。

昭乗は、八幡男山に鎮座する石清水八幡宮の社僧でした。書・画・和歌・茶の湯などの芸術的才能に恵まれた人物で、特に書に優れ、本阿弥光悦・近衛信尹とともに“寛永の三筆”と称されています。また、茶の湯でもその才を発揮し、小堀遠州・江月宗玩など当代一流の文化人と交流する中で、独自の



美術館外観

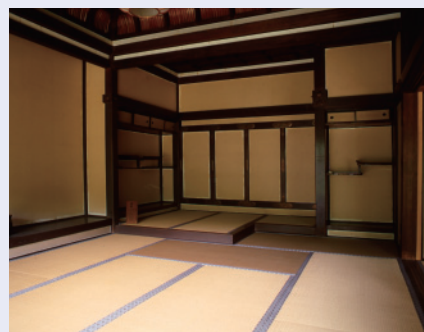
の世界を築いています。茶会は、昭乗が住職を務めた男山中腹の瀧本坊を中心に行われました。昭乗や歴代住職が蒐集した「八幡名物」や、松花堂好の茶道具が、昭乗の美意識を今に伝えています。

松花堂庭園には、この昭乗が晩年に住まいした泉坊の書院と草庵・松花堂が移築されています。いずれも、京都府登録有形文化財・京都府指定有形文化財となっており、敷地の一部は国の史跡に指定されています。内園は、明治の中頃整備され、その後、昭和になって造成された外園に、松隠・竹隠・梅隠の三棟の茶室が建てられ、今日の姿となりました。約7千坪の敷地を有し、竹と椿の洛南の名園としても知られ、四季折々、美しい景色を

見せてくれます。

平成14年には庭園に隣接して、美術館と食の交流棟が建てられました。収蔵品は、松花堂昭乗ゆかりの書画や茶道具、弟子たちの書画作品が中心となっており、これらの作品は、年4~5回開催する展覧会にて公開しています。また、館内には、松花堂昭乗を映像とパネルで紹介するコーナーもあります。

全国にその名を知られる「松花堂弁当」は、この松花堂昭乗に由来しています。食の交流棟にある京都吉兆松花堂店にて、オリジナルの松花堂弁当をご賞味いただき、昭乗ゆかりの庭園・美術館の醍醐味をご堪能ください。



泉坊書院



茶室・梅隠



草庵・松花堂

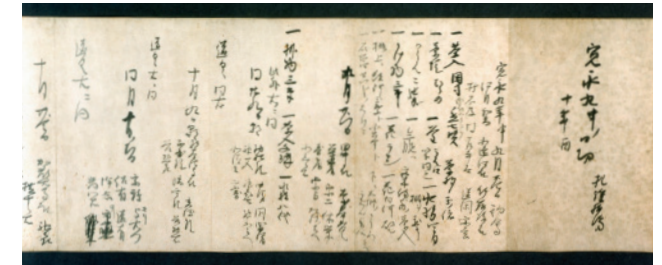
## ギャラリートーク

八幡市立松花堂庭園・美術館  
 主任学芸員 柴沼裕子

松花堂庭園・美術館の一番の見所は、やはり庭園の中心にある草庵・松花堂です。松花堂は、松花堂昭乗が没する2年前にむすんだ庵です。もともと男山の中腹にありましたが、廃仏毀釈の難を逃れ、明治の中頃、この地に移築復元されました。茅葺の方丈の庵。わずかに畳の小間には、二つの床があります。記録によると昭乗は、床に師・実乗の肖像画を掛け、脇床には自画像をかけたとあります。袋棚の下には丸炉、土間には竈が備えられ、この一間ですべてのことが足りるように造られています。天井いっばいに日輪と鳳凰が描かれ、屋根の頂部には宝珠がかかげられた持仏堂でもありました。少し不思議なこの空間については、「千利休の侘茶の茶室とは違い、昭乗がかつて広間で行なっていた、名物道具を飾りつけた格式のある華やかな茶の湯を集大成したもの」といわれています。昭乗の想いがぎゅっと詰まったこの空間を、皆様も是非ご覧になり、その美意識に触れてみてください。



松花堂昭乗筆 百人一首色紙帖



松花堂昭乗筆 松花堂茶会記



八幡名物 松花堂昭乗画 雉子図



松花堂好 四つ切塗箱



名越三昌作 松花堂好 四方釜

### 施設案内

開館時間：午前9時~午後5時(入館入園は午後4時30分まで)  
 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日) 年末年始  
 観覧料：〈美術館・館蔵品展〉  
 一般400円 大・高生300円 中・小生200円  
 \*企画展・特別展の場合、料金が変わります。  
 〈庭園〉  
 一般400円 大・高生300円 中・小生200円  
 \*美術館・庭園共通割引があります。  
 \*20名様以上団体、2割引となります。  
 駐車場：乗用車50台 大型バス3台 \*無料



呉器茶碗 藤村庸軒書付

### 主な収蔵品

#### 【書・画】

百人一首色紙帖 松花堂昭乗筆 江戸時代  
 雉子図 松花堂昭乗画・中院通村賛(八幡名物) 江戸時代  
 劉禹錫像・劉禹錫漢詩「陋室銘」松花堂昭乗画賛 江戸時代  
 松花堂茶会記 松花堂昭乗筆 江戸時代  
 松花堂昭乗書状 小堀遠州宛 江戸時代  
 詩歌集 豊蔵坊信海筆 江戸時代  
 蘇東坡騎驢図 萩坊乗圓筆 江戸時代  
 雪景山水図襖絵(泉坊書院に所在) 安土桃山~江戸時代

#### 【工芸】

松花堂好 四つ切塗箱  
 松花堂好 四方釜 名越三昌作 江戸時代  
 呉器茶碗 藤村庸軒書付 江戸時代

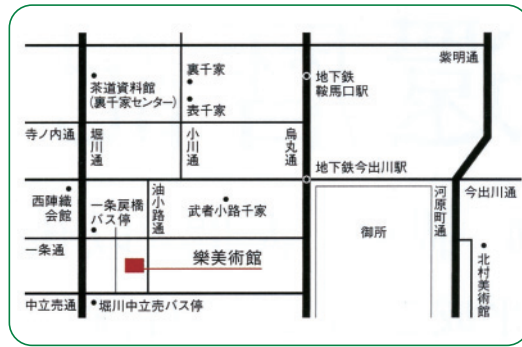
#### 【現代書】

源氏物語「若紫」 日比野光鳳筆  
 椿 山田勝香筆  
 山城音頭 吉井勇作

# 公益財団法人 樂美術館

〒602-0923 京都市上京区油小路通一条下る  
 TEL.075-414-0304 FAX.075-414-0307  
 URL http://www.raku-yaki.or.jp  
 E-mail info@raku-yaki.or.jp

**アクセス** ■市バス「堀川中立売」「一条戻橋」下車（徒歩約3分）  
 ■地下鉄「今出川駅」下車（⑥番出口より徒歩約13分）



**ギャラリー トーク**

今から400年前の桃山時代、茶の湯をかたちづかった千利休が、自分の目指す理想の茶の湯茶碗を樂家初代長次郎という男に造らせました。長次郎は利休の茶の湯の理想をくみ取り、茶碗にこめました。それが樂焼の興りです。赤茶碗と黒茶碗、それはまさに利休の茶の湯にかなう茶碗なのです。

樂焼はロクロを使用せず、手捏ねで形を作り、丹念に削って形を整えます。一筋一筋削り上げていく行程は、作者の特色や個性が強く表れます。又、樂家では釉薬の調合などを秘伝として書き残さず、次代を継ぐ者にも教えないという厳しい家訓を守ってきました。歴代それぞれが、自分の特色、自分の軸調を確立し、常に時代の中で新しい試み、挑戦を行ってきました。樂焼はまさに目で見ると、手で感じる茶の湯の美の歴史であり、創造です。

公益財団法人 樂美術館 館長 樂吉左衛門

公益財団法人樂美術館は樂焼窯元・樂家に隣接して建てられています。1978年樂家十四代吉左衛門・覚入によって設立、収蔵作品は樂歴代作品を中心に、茶道工芸美術品、関係古文書など樂家に伝わった作品を中心に構成されています。これら樂家伝来の収蔵作品は、450年の永きにわたって、樂家歴代が次代の参考になるよう手本として残してきたもの。樂家の人々はこれらの作品を制作の糧として樂焼の伝統を学び、それぞれ独自の作陶世界を築いてきました。樂美術館にはまさに樂焼450年の伝統のエッセンスが保存されているのです。



外観

当館では年4回のテーマ展示、特別展を開催しています。春期特別展では樂歴代、樂焼の歴史、特色を分かりやすく展示、光悦などを含めた樂歴代の作品が一堂に並びます。夏期展は、『親子で見る展覧会/シリーズ「樂ってなんだろう」』として、子供にも分かりやすい解説とし、樂焼を様々な角度から紐解きます。また、手にふれて体感できる展示にも工夫しています。秋は様々な角度から茶の湯、樂焼、工芸美術を取り上げた特別展を行います。「長次郎展」「能と茶の湯と樂茶碗」等、様々な特別展を開催して参りました。冬季、新春展では初春に因んだ茶道美術工芸の展覧となります。これらの基本的な年次計画は場合によって変更されることがあります。

当館では「手にふれる美術館構想」を推進しています。ガラス越しに見るだけではなく実際に手にふれて感じてみて下さい。当館では以下の企画を行っています。

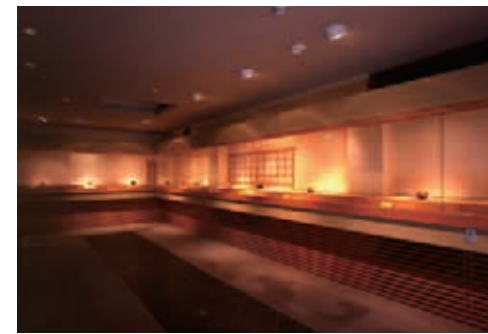
- 1) 「特別鑑賞茶会」三代や四代など歴代茶碗でお茶を一服、樂美術館の収蔵作品を使つての茶会です。館長樂吉左衛門が解説します。
  - 2) 「手にふれる樂茶碗鑑賞会」当館茶室で歴代の茶碗を手にとって鑑賞します。
  - 3) 「親子でお茶一服」当館茶室で歴代の茶碗を使った親子で楽しんで戴く茶会です。樂扶二子（当代吉左衛門夫人）が優しくお話しします。
- 他にも楽しい特別茶会企画やワークショップ、手にふれる展示（夏期展）を行っています。



初代長次郎作 黒樂茶碗 銘 面影



15代吉左衛門作 燒貫黒樂茶碗 銘 吹馬 1993年制作



第一展示室



二階展示室

**施設案内**  
 開館時間：午前10時～午後4時30分（入館は4時まで）  
 休館日：月曜日（祝祭日は開館）、展示替期間  
 入館料：展覧会により異なる（団体30名様以上10%割引）  
 駐車場：完備（自家用車4台程度）

出典：公益財団法人 樂美術館



「親子でお茶一服」風景



「親子で見る展覧会 解説とワークショップ」風景

## 主な収蔵品

初代長次郎以来400余年、樂家歴代の作品を中心に、樂家に伝わった茶道具工芸品、関係古文書など約1100点を所蔵。

### 【樂歴代】

初代長次郎作	黒樂茶碗	銘 面影
	黒樂筒茶碗	銘 村雨
	黒樂筒茶碗	銘 杵ヲレ
	◎二彩獅子像	
三代道入作	黒樂茶碗	銘 青山
	赤樂茶碗	銘 僧正
	二彩鶴首花入	
五代宗入作	黒樂茶碗	銘 梅衣
	菊置上蛤香合	

◎重要文化財

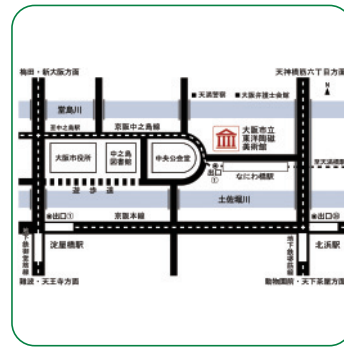
九代了入作	白樂筒茶碗	
十一代慶入作	鶯鳥大香炉	
十四代覚入作	赤樂茶碗	銘 樹映
十五代吉左衛門作	黒樂茶碗	銘 秋菊
	燒貫黒樂茶碗	銘 女媧
【その他】		
本阿弥光悦作	黒樂茶碗	銘 村雲
	飴釉樂茶碗	銘 立峯
田中宗慶作	黒樂茶碗	銘 いさらい
尾形乾山	松鏤絵茶碗	
長谷川等伯筆	山水松林図襖	
雲谷等益筆(伝)	花鳥図襖	

おおさかしりつとうようとうじびじゅつかん

# 大阪市立東洋陶磁美術館

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26  
TEL.06-6223-0055 FAX.06-6223-0057  
URL <http://www.moco.or.jp>

**アクセス**  
■京阪中之島線「なにわ橋」駅 1号出口すぐ  
■地下鉄御堂筋線、京阪本線「淀屋橋」駅 1号出口、  
地下鉄堺筋線、京阪本線「北浜」駅 26号出口  
各駅から約400m（大阪市中央公会堂東側）



## ギャラリー トーク

東洋陶磁美術館  
主任学芸員 野村恵子

当館では、美術品としての陶磁器の魅力を最大限に引き出し、こころゆくまで鑑賞していただけるように独自の様々な工夫をしています。視線をケースに集中できるように室内の照度を落す、スポット・ライトを使用して作品の立体感を強調する、展示台に回転台を設置して作品の全面を見せる、作品の近くでゆっくりと鑑賞できるようケース手前に手すりを設ける、などです。自然採光展示ケースは、当館オリジナルの世界初の試みです。表面がガラスに近い状態の陶磁器は、光源の種類により色合いが微妙にかわって見えるため、自然の光のもとでの鑑賞が理想的とされています。当館ではその理想に近づけようと、ケースの上部にダクトを設けて間接的に外光が展示台に注ぐ仕組みを考案しました。その結果、自然光のもとで、陶磁器の釉色の微妙な色合いを鑑賞することが可能となりました。このケースには国宝・油滴天目茶碗、国宝・飛青磁花生など、中国・宋時代の青磁や天目茶碗を中心に展示しています。また、オリジナルの免震装置を設置して貴重な作品を地震の揺れから守ることに配慮しています。

大阪市立東洋陶磁美術館は、大阪市の中心地、水と緑に囲まれた中之島公園の一面に位置しています。この美術館は、中国と韓国のやきもののすぐれたコレクションとして知られる安宅コレクション約1,000点が大阪市へ寄贈されたことを記念して、広く一般に公開するため1982年に開館しました。

開館以来、日本陶磁の収集や、李秉昌コレクション韓国陶磁、濱田庄司作品などの寄贈により、館蔵品は現在約4,000点を数えます。この中には国宝2点と重要文化財13点が含まれ、東洋陶磁の専門美術館としては世界第一級の質と量を誇っています。また、ペルシア陶器、鼻煙壺など関連分野のコレクションの寄贈によっても館蔵品の充実が進んでいます。

当館の平常展では、こうした館蔵コレクションの中から代表的な作品約400点によって中国、韓国、日本の陶磁などを地域別、時代別、種類別、技法別などの独自の構成と方法により系統的に紹介しています。また、平常展に変化と多様性を持たせるため、寄贈作品を中心にテーマ・ジャンルごとに企画構成した特集展示も併催しています。

年1～2回の企画展、特別展では個別の専門的なテーマを設け、学術的水準と芸術性の高さを保ちながら、魅力ある内容の展示を行っています。

作品の魅力を十分に鑑賞していただくために、



大阪市立東洋陶磁美術館外観

施設や展示方法には様々な工夫をこらしています。落ち着いた環境で個性豊かな作品に囲まれ、ほんものの持つ美しさに触れる—そのような美的体験の場を提供しています。

### 施設案内

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）  
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、  
展示替え期間  
観覧料：一般500円（400円）/高校・大学生300円（250円）  
小・中学生無料  
※（ ）内は20名以上の団体  
※企画展・特別展の場合は別料金  
当館には一般向け専用駐車場はありません。  
日曜日・祝日の午前10時～午後4時の間、中之島公園内は「車両進入禁止」となります。



国宝・油滴天目茶碗  
建窯 南宋時代・12～13世紀



国宝・飛青磁花生  
龍泉窯 元時代・13～14世紀



重文・青磁鳳耳花生  
龍泉窯 南宋時代・12世紀



重文・木葉天目茶碗  
吉州窯 南宋時代・12世紀

出典：大阪市立東洋陶磁美術館



展示室



展示室

### 主な収蔵品

中国陶磁は現在約950点を数え、後漢時代から明時代までの代表的な作品が地域別、種類別に収集されています。主な作品として、国宝・油滴天目茶碗、国宝・飛青磁花生、重文・青磁鳳耳花生、重文・木葉天目茶碗などがあります。

約1500点の韓国陶磁は、その大部分が高麗時代、朝鮮時代のものです。窯、時代、技法、器形、文様などあらゆる視点から網羅的に収集されており、当館で最も充実したジャンルです。主な作品として、重文・青磁象嵌海石榴華文水注、粉青鉄絵蓮池鳥魚文依壺、青花窓絵草花文面取壺などがあります。

日本陶磁は開館後の収集品が中心で約50点ですが、各時代の

代表作からなっています。主な作品として、重文・三彩壺、色絵牡丹文八角壺、色絵菱豊地鳳草文大皿などがあります。2000年から2005年にかけて濱田庄司などの作品約300点の寄贈をいただき、館蔵の日本陶磁は質的にも量的にも充実したものとなりました。

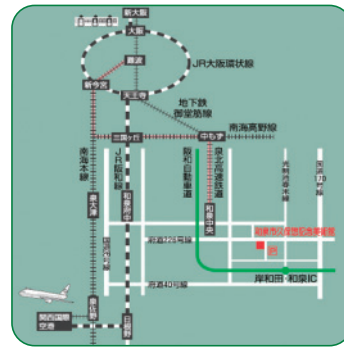
その他、少数ながらベトナム陶磁、中国金工品など関連する東洋古美術の作品類を収蔵しています。近年新たに、ペルシア陶器や鼻煙壺などのまとまった寄贈も受け、展示の企画構成にさらに広がりを持たせることが可能となりました。

いずみしくぼそうきねんびじゅつかん

## 和泉市久保惣記念美術館

〒594-1156 大阪府和泉市内田町3-6-12  
TEL.0725-54-0001 FAX.0725-54-1885  
URL <http://www.ikm-art.jp>

**アクセス** ■ 泉北高速鉄道と泉中央駅より南海バス①③乗り場「春木川」「若樫」行、③乗り場「美術館前」「松尾寺」行（約10分）  
■ JR 阪和線と泉府中駅下車徒歩5分のバス停「和泉府中車庫前」より南海バス「春木川」「若樫」行（約30分）  
■ 南海本線泉大津駅より南海バス②乗り場より乗車「春木川」「若樫」行（約40分）  
いすれもバス停「美術館前」下車すぐ  
■ 阪和自動車道 岸和田・和泉インターより約3分

ギャラリー  
トーク和泉市久保惣記念美術館  
学芸員 後藤健一郎

当美術館では、年間に所蔵コレクションを紹介する展覧会（特別陳列1回、常設展4回）5回、他の展示施設より所蔵品を拝借しひとつのコンセプトのもとに展覧会を構成する特別展1回を開催しています。コレクションは林宗毅氏から寄贈された定静堂コレクションや、中国古代の帯鉤を収蔵する江川コレクション、浮世絵版画約6000枚を収める第四次久保惣コレクション（久保恒彦父子コレクション）などがあり、現在約11000点の美術品を収蔵しています。

茶室は4月、5月、10月、11月は土日、それ以外の月は土曜日のみ午前11時から12時、午後2時から午後3時の間に公開しています。和泉市久保惣市民ホールではコンサートを土日祝に年間約70回開催しています。茶室、ホールは入館していただければ無料でご覧頂けます。

当館は、大阪府和泉市で明治以来綿織物業を営んできた久保惣株式会社が昭和57年（1982）10月、美術品約500点、建物、敷地、基金を和泉市に寄贈し、開館しました。和泉市は、和泉市文化振興財団を設立し、市の文化拠点として美術館を運営しています。開館以来、日本、中国をはじめとする東洋古美術の美術館として活動を行ってきました。平成9年（1997）には新館が建設され和泉市へ寄贈され、中国の青銅器とクロード・モネ「睡蓮」や、オーギュスト・ルノワール「カーニユのメゾン・ド・ラ・ポスト」など印象派絵画を含む西洋近代美術を常時展示しています。

落ち着いた佇まいは鑑賞の場にふさわしく、日本庭園や茶室を巡りながら、名品と出会える美術館として親しまれています。和泉市久保惣市民ホール（Eiホール）、和泉市久保惣市民ギャラリー、和泉市久保惣創作教室も併設されており、文化振興の施設としての役割も担っています。

開館と同時に寄贈された約500点の美術品は第一次久保惣コレクションと呼称し、国宝2点、重要文化財28点を含む当美術館の基礎となるコレクションです。国宝は中国・南宋時代に制作された「青磁 鳳凰耳花生 銘万声」と平安時代の書「歌仙歌合」、重要文化財は宮本武蔵が描いた「枯木鳴鶉図」や、墨跡「上堂語」蘭溪道隆筆、「貫之集下（石山切）」



美術館外観

藤原定信筆などがあります。茶道具としては、「唐津 茶碗 銘三宝」「黄瀬戸 立鼓花入 銘旅枕」（いずれも重要文化財）などがあり、「紫泥茶銚 萬豊順記印」や「白泥 三峰炉（秀才炉）」などの煎茶道具も所蔵しています。

## 施設案内

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）、  
展示替え期間、年末年始入館料：常設展 一般500円、大高生300円、中学生以下無料  
特別展および特別陳列では入館料が変わります。65歳以上は2割引、20名以上の団体は2割引、各種障害者手帳を提示された場合、本人および介助者1名は無料

茶室 曜日、時間を限定して公開しています。雨天は公開中止。

駐車場：無料。大型バス駐車可。



●青磁 鳳凰耳花生 銘万声



◎唐津 茶碗 銘三宝



◎貫之集下（断簡）石山切 藤原定信筆



◎伊勢物語絵巻

出典：和泉市久保惣記念美術館



本館展示室



茶室「惣庵」

本館庭園内にある惣庵と聴泉亭の茶室は、昭和12年（1937）に久保家により建設されたもので、表千家の残月亭と不審庵を写したものです。美術館開館時に和泉市に寄贈され、平成18年（2006）には、登録有形文化財建造物に選ばれました。1月には初釜を催しているほか、展覧会開催時に、曜日と時間を限定して聴泉亭を公開しています（惣庵と茶室敷地内庭園は非公開）。茶道関連作品を公開する展覧会は、不定期開催です。公開予定については美術館にお問い合わせください。

## 主な収蔵品

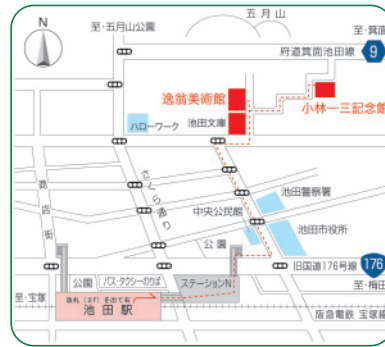
●国宝 ○重要文化財 ○重要美術品

●歌仙歌合	平安	●響銅 水瓶	奈良
○貫之集下（断簡）石山切	藤原定信筆 平安	○青銅 梅樹檜垣飛鳥文鏡	鎌倉
○熊野懐紙	藤原範光筆 鎌倉	○青銅 蓬萊図方鏡	室町
○法華経卷第一方便品第二	平安	○黄瀬戸 立鼓花入 銘旅枕	桃山
○法語 円爾筆	鎌倉	○唐津 茶碗 銘三宝	桃山
○伊勢物語絵巻	鎌倉	青銅 「王氏作」方格規矩四神神獸文鏡	中国・漢
○駒鏡行幸絵巻	鎌倉	○響銅 鶴尾形柄香炉	中国・南北朝
○山崎架橋図	鎌倉	青銅 海獣葡萄文鏡	中国・唐
源氏物語手鑑	土佐光吉筆 桃山	●青磁 鳳凰耳花生 銘万声	中国・南宋
○枯木鳴鶉図	宮本武蔵筆 江戸	紫泥 茶銚「万豊順記」印	中国・清
○東海道五十三次	歌川広重画 江戸		
○十王経図巻	中国・五代～北宋		

# 財団法人 阪急文化財団 逸翁美術館

〒563-0058 大阪府池田市栄本町12-27  
 TEL.072-751-3865 FAX.072-751-2427  
 URL <http://www.itsuo-museum.com>  
 E-mail [itsuo-museum@hankyu-group.jp](mailto:itsuo-museum@hankyu-group.jp)

**アクセス** ■阪急電鉄宝塚線「池田駅」下車、北へ徒歩10分



## ギャラリー トーク

逸翁美術館  
学芸員 竹田梨紗

阪急電鉄をはじめとする、阪急東宝グループ（現・阪急阪神ホールディングス）の創設者、小林一三（逸翁）が収集した作品を中心に、年4回の企画展を開催しています。開館50周年を期に、新たな場所へ美術館を移転し、また2011年4月には、逸翁の文化構想の1つとして設立された「阪急学園池田文庫」と合併して、現在は「阪急文化財団」として活動しています。「今太閤」とも呼ばれた逸翁が収集した「豊臣秀吉画像」などを所蔵する逸翁美術館、宝塚歌劇のポスター、役者絵、絵看板などを所蔵する池田文庫、逸翁の事績をたどることができる小林一三記念館。3つの施設をそれぞれ巡れば、逸翁の人となりや、より深く知っていただけます。特に小林一三記念館は、洋館、長屋門、塀、茶室「即庵」、「費隠」が国登録の有形文化財に指定され、逸翁居住当時を偲ぶことのできる施設です。館内には、邸宅レストラン「雅俗山荘」が設けられ、庭を眺めながら、本格的フランス料理を楽しむこともできます。

### 【逸翁美術館】

逸翁美術館は、小林一三の雅号「逸翁」を館名とし、1957年10月、翁の旧邸「雅俗山荘」を展示の場として開館いたしました。2008年3月、開館50周年を迎えたのを期に、逸翁が生前、文化施設構想の一環として美術館建設を計画していた地に、新たに美術館を建設し、2009年10月、装いも新たに開館しました。

逸翁は、明治・大正・昭和期に実業界で活躍し、阪急電鉄をはじめとする、阪急東宝グループを起こし、太平洋戦争直前の難局に商工大臣を、戦後の混乱期に国務大臣復興院総裁などを歴任しました。また、文化・芸術の面においては、宝塚歌劇の創設、「小林一三全集」全七巻におさめられた著述、茶道における「大乘茶道」の提唱と実践があります。

逸翁のコレクションは、翁が二十歳代の頃から始まり、茶の湯と出会ったことによって、やがて数千点に達する茶道具をはじめ、焼物や絵画などを収集していきます。日本的な美術鑑賞の場である茶会においてこれらを披露する一方、文化の向上に役立つために、これらのコレクションの一般公開を計画しましたが、実現を前に他界、その遺志に基づいて設立されたのが、逸翁美術館です。



美術館外観

### 【小林一三記念館】

1957年より、逸翁美術館として開館してきた、小林一三の旧邸「雅俗山荘」を、小林一三記念館と改め、2010年4月に開館しました。往時を偲ばせる姿へと復元した建物の中では、逸翁の生い立ちから幼少期、企業家としての姿、宝塚歌劇の創設、趣味の茶の湯や美術品の収集に至るまでの、様々な逸翁の事績を紹介しています。

また、逸翁が工夫を凝らした茶室「即庵」をはじめ、近衛文磨公命名の茶室「費隠」、貸茶室としても使用できる「人我亭」や、四季折々の草花が楽しめる庭も散策することができます。



重要文化財 豊臣秀吉画像



佐竹本三十六歌仙切 藤原高光



五彩蓮華文呼継茶碗 逸翁銘「家光公」

### 施設案内

#### 【逸翁美術館】

マグノリアホール（貸ホール）：

音楽会、講演会、研究会などにご利用いただけます。

茶室即庵：展示期間中の土・日・祝日に呈茶を行っています。

休館日：月曜日（但し祝日の場合は開館、翌火曜日休館）

年末年始、展示替期間

開館時間：午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）

観覧料：一般1,000円／65歳以上700円／大・高校生600円

（記念館と共通券）／中学生以下無料

#### 【小林一三記念館】

観覧料：300円

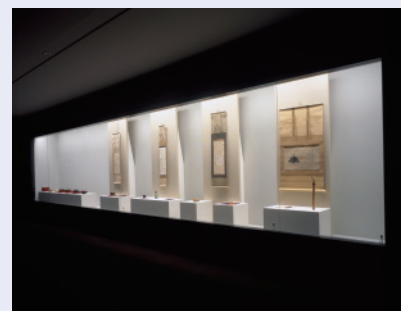
開館時間：午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）

休館日：月曜日（但し祝日の場合は開館、翌火曜日休館）

貸茶室：「人我亭」「即庵」を茶会などにご利用いただけます。



錆絵流水文手桶水指



展示室



茶室「即心庵」



小林一三記念館

### 主な収蔵品

#### 【書画】

- 豊臣秀吉画像 伝狩野光信筆 江戸
- 佐竹本三十六歌仙切 藤原高光 鎌倉
- 継色紙「あまつかぜ」 伝小野道風筆 平安
- 古筆手鑑「谷水帖」 二十四葉 南北朝
- 大江山絵詞 室町
- 芦引絵 江戸
- 奥の細道画巻 与謝蕪村筆 江戸
- 白梅図屏風 六曲一双 呉春筆 江戸
- 三十三間堂通矢図屏風 桃山
- 伊勢集断簡「石山切」(ぬきためて) 伝藤原公任筆 平安

- 蓮根図 伝牧谿筆 元
- 露殿物語絵巻 江戸
- 【工芸品】
- 花鳥蒔絵螺鈿洋櫃 付属籐編外櫃 桃山
- 芒蒔絵棚 江戸
- 古瀬戸印花菊文瓶子 鎌倉
- 沃懸地高蒔絵桐竹文硯箱 桃山
- 秋草蒔絵螺鈿聖餅箱 桃山
- 井戸茶碗 銘「野分」 朝鮮王朝
- 五彩蓮華文呼継茶碗 逸翁銘「家光公」 元
- 錆絵染付流水文手桶水指 尾形乾山作 江戸

◎重要文化財 ○重要美術品



# 財団法人 藤田美術館

〒534-0026 大阪府大阪市都島区網島町10-32  
TEL.06-6351-0852 FAX.06-6351-0583

**アクセス** ●JR東西線 大阪城北詰駅③番出口 徒歩2分  
●JR環状線・学研都市線/京阪本線 京橋駅 徒歩10分  
●地下鉄長堀鶴見緑地線 京橋駅・大阪ビジネスパーク駅 徒歩10分  
●阪神高速 1号環状線 北浜出口・13号東大阪線 法円坂出口 約10分



ギャラリー  
トーク

藤田美術館  
藤田 清

当美術館では、3月5日～6月12日まで「季節を愉しむⅡ 春～初秋の美術」を開催しています。  
日本では古代より、四季折々の季節を感じながら生活を営み、祭や行事なども明治6年に改暦されるまで毎年決まった日時に行われていました。本展覧会では、季節はもちろん、行事やその源流についても作品を通してご紹介いたします。古代から江戸時代の人が感じた季節を疑似体験していただける内容となっております。  
また、当美術館のコレクションを築いた藤田傳三郎の生誕170年・没後100年を記念した展覧会を、平成23年秋から平成24年秋まで開催いたします。明治のコレクター藤田傳三郎が愛した美術品の数々をご覧ください。

藤田美術館は、明治時代に活躍した藤田傳三郎(1841～1912)とその長男平太郎、次男徳次郎が蒐集した美術品を所蔵しています。

傳三郎は、長州萩(現在の山口県萩市)の造酒屋に四男として生まれました。明治維新の後に大阪へ出てから藤田組を興し、秋田県小坂の鉱山業や岡山県の児島湾干拓などの土木業を手掛け、阪堺鉄道や宇治川電気の創業など数多くの事業に関わりました。また、自らも設立に携わった大阪商法会議所(現在の大阪商工会議所)の二代会頭を務めるなど、大阪経済界の中心で活躍しました。

また、茶道や能をはじめとする文化芸術に造詣が深く、多くの美術品が海外へ流出していた当時の状況を憂い、それら美術品の保護のため蒐集に努めました。平太郎と徳次郎も、傳三郎の想いを継いで美術品の保護に尽力しました。

昭和29年5月に開館した当美術館の展示室は、大阪空襲により大部分が焼失した藤田家本邸のなかで、幸いにも類焼を免れた蔵を改装したものです。

所蔵する美術品は、古代～明治時代までの絵画、書蹟、陶磁器、漆工、金工、考古品など多岐に渡り、国宝9件と重要文化財51件を含め約5,000点を数えます。

傳三郎の「かかる國の寶は一個人の私有物にあらず」との考えを引き継ぎ、日本の文化と教育の



藤田美術館 外観

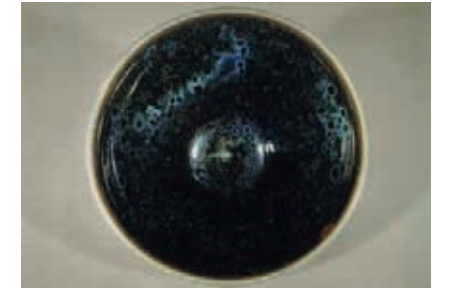
発展に寄与するため、毎年春と秋に展覧会を開催しております。

### 施設案内

開館期間：春季 3月中旬～6月中旬  
                  秋季 9月中旬～12月中旬  
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)  
                  上記開館期間以外の期間  
開館時間：午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)  
入館料：大人800円・高大生500円・小中生300円  
                  (団体料金は20名様以上で各50円引き)  
駐車場：有り(5台・大型バス不可)



国宝 花蝶蒔絵挾紙 平安時代



国宝 曜変天目茶碗 南宋時代



国宝 紫式部日記絵詞 鎌倉時代



本手利休斗々屋茶碗 朝鮮時代



国宝 玄奘三蔵絵 鎌倉時代



交趾大亀香合 明時代



展示室



茶室 光雪庵



高野山光臺院から移築された多宝塔

### 今後の展覧会スケジュール

平成23年9月10日～12月11日 「コレクター藤田傳三郎の審美眼」  
平成24年3月10日～6月17日 「藤田傳三郎の軌跡」  
平成24年9月8日～12月9日 「藤田傳三郎の想い」

### 主な収蔵品

●国宝 ○重要文化財 ○重要美術品

#### 【絵画】

●両部大經感得図 平安時代  
●紫式部日記絵詞 鎌倉時代  
●玄奘三蔵絵 鎌倉時代  
●柴門新月図 室町時代  
○雪舟自画像 室町時代  
○大伴家持像(上疊本三十六歌仙絵) 鎌倉時代

#### 【書蹟】

●大般若經 奈良時代  
●深窓秘抄 平安時代  
○古今和歌集卷第十八断簡(高野切) 平安時代  
○継色紙 伝 小野道風筆 平安時代

#### 【工芸】

●曜変天目茶碗 南宋時代  
●花蝶蒔絵挾紙 平安時代  
●仏功德蒔絵経箱 平安時代  
○古瀬戸肩衝茶入 銘 在中庵 室町時代  
○菊花天目茶碗 室町時代  
○御所丸黒刷毛茶碗 銘 夕陽 朝鮮時代  
○古伊賀花生 銘 寿老人 桃山時代  
○鏤絵替角皿 尾形乾山 作/光琳 画 江戸時代  
交趾大亀香合 明時代

#### 【その他】

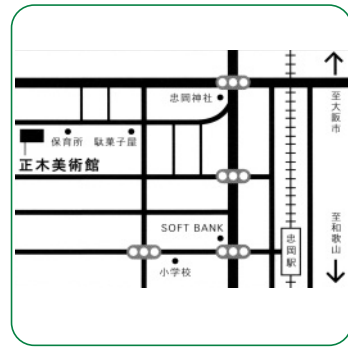
○木造地藏菩薩立像 快慶 作 鎌倉時代

# 正木美術館

TEL.0725-21-6000 FAX.0725-31-1773

URL <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/masaki-m/> E-mail masaki-museum@msi.biglobe.ne.jp

**アクセス** ■ [車] 《大阪方面より》阪神高速湾岸線 助松出口より臨海線を約3km、新浜東交差点を左折、一つ目の信号を右折、次の四つ角を左折すく。  
《和歌山方面より》阪神高速湾岸線 岸和田北出口より信号を右折、次の信号を左折し臨海線へ。臨海線を約3km、新浜東交差点を右折、一つ目の信号を右折、次の四つ角を左折すく。  
■ [電車] 南海本線忠岡駅(普通電車のみ停車)より徒歩15分。  
タクシーの場合は、泉大津駅下車。泉大津駅よりタクシーで約7分。(忠岡駅にはタクシー乗り場はございません)



## ギャラリー トーク

正木美術館  
主席学芸員 高橋範子

大阪の南郊、堺の街よりまだ南に忠岡という町がある。付近は羽衣や高師浜という地名が残るとおりに、古来風光明媚の地と知られた地域である。関西空港も程近い。その忠岡に、わが国の中世という時代を満喫する美術館として、正木美術館はある。鎌倉時代に新興宗教として中国から入ってきた禅宗。その禅宗の文化として栄えた水墨画の名品が多く収蔵される。14、15世紀の水墨画にはモノクロームで描かれた厳格な精神性と優美な静寂の世界が満たされている。

そうした中世の禅の精神に憧れ、禅僧の書である墨蹟や水墨画を茶道の世界に用いたのが千利休だ。当館には、千利休の生前の姿を知らせる唯一の肖像画が伝わっている。天下人と茶道をとおして戦国の世を生きた利休62歳の妻みと対面できる唯一の作品。利休ゆかりの茶道具も蔵す。地の利は少し悪いが、ここに来ていただければかならずや上質の美術品と対峙する静寂に満ちた無二の時間を味わっていただける。ぜひご来遊くださいませ。

正木美術館は、創設者・正木孝之(とくとう、1895～1985)が多年にわたり収集した東洋美術品と、土地建物の寄付によって、昭和43年11月に一般公開された財団法人の美術館です。収蔵品の数は国宝3点、重要文化財12点を含む1200点を数え、東洋古美術品の多彩な分野におよびます。

なかでも、鎌倉、室町時代の水墨画、墨蹟の名品群は、わが国の中世禅宗社会の文化遺産として高く評価され、《中世禅林文化の宝庫》として親しまれています。また、利休62歳の寿像「千利休図」を始めとし、茶道具の美の領域も魅力のひとつとなっています。近年は、現代美術作家・須田悦弘の作品が加わり、中世の美を未来へ継承する試みにも力を注いでいます。



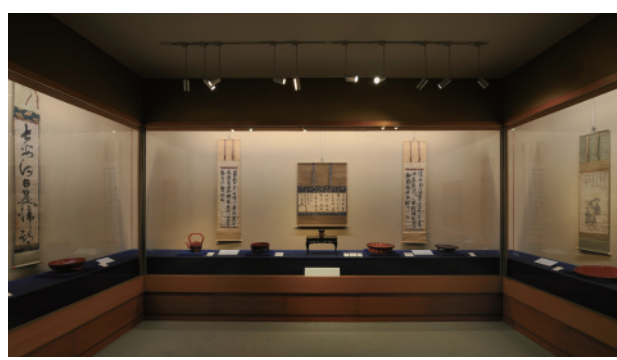
正木美術館 外観 撮影：鈴木心



重文 千利休図



国宝 三体白氏詩巻 小野道風筆 撮影：鈴木心



館内 2009年秋季展「朱と墨」

**施設案内**  
 特別展開催時期：春季展(3月下旬～6月初旬)  
 秋季展(9月下旬～12月上旬)  
 開館時間：10:00～16:30(入館は16:00まで)  
 休館日：水曜日  
 入館料：一般700円/大・高生500円/中・小生300円  
 ※団体割引(各100円引き)：20名以上  
 ※身障者手帳提示で同伴者1名まで団体料金に割引  
 ※ミナビタカード、JAFカード提示で団体料金に割引  
 駐車場：あり



瑠璃蓋天目茶碗・青貝松竹梅文台



茶杓 銘ゆみ竹・瓢形茶入 撮影：鈴木心



旧正木邸



庭園

## 主な収蔵品

【墨蹟】		【工芸】		【茶道具】		◎国宝 ◎重要文化財
◎三体白氏詩巻	小野道風筆	青磁神亭壺		瑠璃蓋天目茶碗		一休宗純と森女図 一休宗純賛 室町時代
◎後嵯峨院本白氏詩巻	藤原行成筆	秋萩蒔絵手箱	本阿弥光悦作	黒楽茶碗	伝長次郎作	三国・呉～西晋時代
◎大燈国師墨蹟	溪林偈・南嶽偈			茶杓	利休作 銘ゆみ竹	江戸時代
◎北礪居簡墨蹟	梅の偈			雲龍釜	辻与次郎作	南宋時代
◎虚堂智愚墨蹟	送僧偈			大名物 肩衝茶入	銘有明	桃山時代
						元時代
【絵画】						
◎六祖慧能図	無学祖元賛					
◎湖山図	文清筆					
◎墨梅図						
◎山水図	拙宗(雪舟)筆					
◎千利休図	伝長谷川等伯筆					

# 財団法人湯木美術館

〒541-0046 大阪市中央区平野町3-3-9  
TEL.06-6203-0188 FAX.06-6203-1080  
URL <http://www.yuki-museum.or.jp/>

**アクセス** ■[地下鉄・電車] ●地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」下車、11番出口より南へ徒歩5分。  
●京阪電車「淀屋橋駅」下車、8番出口より南へ徒歩7分。  
■[車] 阪神高速環状線 ●土佐堀出入口より北東へ ●本町出入口より北西へ  
(駐車場はございません。近隣のパーキングをご利用下さい)



## ギャラリー トーク

湯木美術館  
学芸員 倉林 重幸

当館所蔵品は湯木貞一が一代で収集した茶道具と美術品を中心としています。収集にまつわる湯木の努力は、これまでの収集品を手放したりと「血の涙を流す」ようであったそうで、館蔵の優品は彼の審美眼の確かさを伝えています。茶の湯において、亭主の思いを代弁し、客との直心の交わりを生むための一手段となるのが、もてなしに使われる種々の茶道具です。この茶道具は実に多岐にわたり、江戸時代には、それがゆえに茶の湯を「数寄」と称するのだとの一説が現れたほどです。当館の収蔵品の特徴は、茶道史上に不朽の名を残している人々が実際に作り出し、あるいは舶来品から茶道具に取り上げ、直に触れ、重宝として伝来してきたものを多く含んでいることでもあります。紹陽、利休、三斎、宗旦、遠州、石州といった代表的な茶人の足跡を伝える館蔵の茶道具は、生きた茶道史そのものでもあります。もうひとつ館蔵品の特徴としては、懐石料理の器の豊富さがあります。茶の湯への傾倒で培った繊細な季節感や情趣を、「日本料理を世界の名物にする」という熱意のもとで開花させた湯木の料理には、それをより美しく粧うための器の吟味も重要でした。第一級の美術工芸品の数々を惜しげもなく食器に利用していく湯木の融通無碍の様が偲べれます。

当館は、日本料理「吉兆」の創業者であり初代館長でもあった湯木貞一が、50余年かけて収集したコレクションを収蔵しており、1987年11月に開館いたしました。

湯木は「日本料理を世界の名物にしたい」という執念のもと、長年にわたり日本料理を世界に類のない総合的な芸術としての食文化に高め、国際的に寄与したとして、1988年には日本の料理界としては初めて文化功労者として顕彰を受けています。

また、湯木は「お茶を料理の横糸あるいは縦糸に置いて、お茶の真髄を究めたい」と考え、茶の湯そのものに傾倒しつつ、昔の懐石料理の献立や、古典文学から得た季節感・風趣を自らの料理に反映させることで、従来の日本料理を洗練していきました。それは料理の味や器などの装飾についての吟味はもとより、建築、調度、設え、演出といった、料理を楽しむための雰囲気作りにもさまざまな工夫と創意をめぐらすことでもありました。

このように湯木は料理と茶の湯との双方の研鑽を重ね、茶の湯の道具、懐石料理の器、古美術品の収集に努め、「石山切（伊勢集）」「高野切」「春日宮曼茶羅図」「唐物茶入 銘紹陽みほつくし茄子」「志野茶碗 銘広沢」「織部四方手鉢」（いずれも重文）など、重要文化財11点、重要美術品3点を含むコレクションを形成しました。



美術館外観

当館は御堂筋という大阪随一のビジネス街のただ中にありますが、閑静で落ち着いた雰囲気空間と好評を得ております。また、戦後、罹災した湯木が再起した舞台である吉兆平野町店の跡地に当館ビルは建っており、江戸時代の北組惣会所跡地や適塾跡も至近で、歴史的な移ろいにも思いを馳せることができます。

展覧会は、年4回の企画展を開催し、会期中には講演会や美術館茶会も行っています。友の会の活動も行っています。皆様のご来館をお待ちします。



大井戸茶碗 銘「対馬」（名物）  
朝鮮王朝時代



祥瑞蜜柑水指 明時代



茶杓 春屋宗園作  
(中興名物) 室町時代



重文 宗峰妙超墨蹟 古徳偈 鎌倉時代



重文 織部四方手鉢 江戸時代



重文 唐物茶入 銘「紹陽みほつくし茄子」（大名物）  
南宋～元時代

写真出典：「湯木美術館蔵品選集」

## 施設案内

開館時間：午前10時～午後4時30分（入館は午後4時まで）  
開館期間中の第一金曜日は午後7時まで開館（入館は午後6時30分まで）  
休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、および企画展以外の日  
入館料：一般700円、大・高生400円、高校生300円  
割引：20名以上で団体割引いたします。  
身障者手帳ご提示の方は一般入館料の半額でご入館いただけます。  
駐車場：なし（近隣のパーキングをご利用下さい）

## 主な収蔵品

◎重要文化財 ○重要美術品

### 【古筆・墨蹟・絵画】

- ◎継色紙（神かきの） 伝小野道風筆 平安時代
- ◎高野切（古今和歌集巻第九巻頭） 伝紀貫之筆 平安時代
- ◎寸松庵色紙（よしかわ） 伝紀貫之筆 平安時代
- ◎石山切（伊勢集、君かよは） 伝藤原公任筆 平安時代
- ◎熊野懐紙（なかめゆく） 藤原雅経筆 鎌倉時代
- 升色紙（かきもり） 伝藤原成筆 平安時代
- ◎春日宮曼茶羅図 観舜筆 鎌倉時代
- ◎佐竹本三十六歌仙絵 在原業平 鎌倉時代  
(大阪市指定文化財) 浪華名所図屏風 江戸時代

### 【工芸品】

- 古銅桔梗口獅子耳花入（東山御物） 明時代

- 唐物肩衝茶入 銘「富士山」（中興名物） 南宋～元時代
- 瀬戸肩衝茶入 銘「飛鳥川」（中興名物） 江戸時代
- 御所丸茶碗 銘「由貴」 朝鮮王朝時代
- 黒茶茶碗 銘「五月雨」 長次郎作 室町時代
- ◎志野茶碗 銘「広沢」 室町～江戸時代
- 色絵扇流文茶碗 野々村仁清作 江戸時代
- 茶杓 銘「ヤハラ道怡」 千利休作
- 茶杓 銘「柏樹子」 小堀遠州作
- 古芦屋真形松竹地紋釜 室町時代
- 信楽鬼桶水指 室町時代
- 黄瀬戸建水 銘「大腸指」 千利休所持 室町時代
- 猿鶴時絵茶箱 鴻池家伝来 室町時代



美術館展示室（一畳台目席）



美術館展示室

こうえきざいだんほうじん こうせつびじゅつかん

# 公益財団法人 香雪美術館

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2-12-1  
 TEL.078-841-0652 フリーダイヤル0120-410652 FAX.078-841-1402  
 URL <http://www.kosetsu-museum.or.jp>  
 E-mail [info@kosetsu-museum.or.jp](mailto:info@kosetsu-museum.or.jp)

**アクセス**  
 ■阪急「御影」駅より 東南 徒歩5分  
 ■JR「住吉」駅より 北西 徒歩15分  
 ■阪神「御影」駅より 市バス19系統「阪急御影」下車 徒歩5分



香雪美術館は、朝日新聞の創業者、村山龍平（1850～1933。号「香雪」）が蒐集した、日本・東洋古美術のコレクションを収蔵する私立の美術館です。武具（刀剣・甲冑）・仏教美術（仏像・仏画）・書跡（かな・墨蹟）の名品から、書画・茶道具の優品に至るまで、重要文化財18点・重要美術品27点を筆頭に、各ジャンルの精髓を網羅しています。これらの中から、各回毎にテーマを決めて数十点ずつを選び、毎年、春・秋の各季に展示公開しています。



香雪美術館 前庭

美術館の敷地内には、明治・大正期に建てられた、洋館・和館（書院棟・玄閣棟・茶室棟）からなる旧村山家住宅（国登録文化財）が、六甲の自然林の環境とともに遺されます。茶室棟は、茶室「玄庵」を中心に玄閣・寄付などを配し、また、書院棟との間に茶室「香雪」を設けています。「玄庵」は、藪内流家元の茶室「燕庵」の忠実な写しとして、相伴畳付三畳台目の規矩を守っています。

こうした伝統的な建造物を維持管理し、毎年春秋に「庭園特別見学会」を開催して活用を図っています。

さらに、秋には収蔵品の茶道具や茶室・書院を使って、濃茶・薄茶、点心で持てなす茶会を開き、伝統文化の真髄を体験できる機会を催しています。

平成22年11月、香雪美術館は公益財団法人とし

て認定されました。今後とも、日本・東洋の古美術の優品や、歴史を刻む近代建築の保存・調査を進め、文化的体験の機会を提供して参ります。公益活動を通じ、美術を愛し、文化向上を願う志と、かけがえのない文化財とを未来へ引き継いで参ります。

### 施設案内

**開館時間** 午前10時～午後5時（入館 午後4時30分まで）  
**休館日** 会期中無休。夏期・冬期休館  
**観覧料** 一般700(550)円・大高生450(350)円・中学生以下無料  
 ※（ ）内は特別割引、及び20名以上の団体料金  
 ※特別展については、別途、料金を定めます  
**駐車場** お問い合わせ下さい



香雪美術館 展示室



茶室「玄庵」



和館書院棟大広間

**ご案内**：美術館の前庭に立つ立礼の茶室「梅園」では、展示に関連するテーマの講演と茶会とを合わせた「梅園会」を年数回開催いたします。館蔵の美術品や茶道具を、身近にお楽しみいただける機会となります。当館ホームページでの、催し案内を御覧下さい。

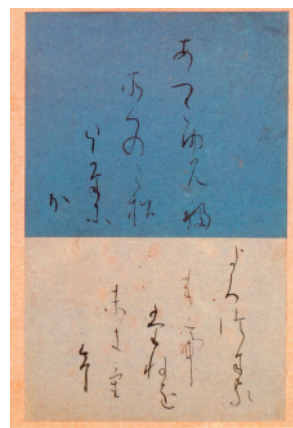
### ギャラリー トーク

公益財団法人 香雪美術館  
 学芸員 仙海義之

明治12年、朝日新聞の創刊により財界入りした村山龍平は、また個人としても実業家達との茶の湯の交遊を通じ、近代の数寄者に名を連ねます。その龍平翁が修めたのは藪内流の茶道です。当初、藪内節庵に師事し、やがて竹翠（藪内家10代）・竹窓（同11代）について研鑽、「玄庵」の号を許されました。明治35年、朝日新聞の村山龍平（玄庵）・上野理一（有竹斎）、藤田組の藤田伝三郎（香雪斎）が発起人となり、大阪の実業界を中心に、茶の湯の会「十八会」が生まれます。財閥の住友吉左衛門（春翠）、豪商の殿村平右衛門（平衣文）、白鶴の嘉納治兵衛（鶴庵）らの計18名が参加しました。日露戦争後は、明治41年、節庵を中心に「篠園会」が生まれ、十八会からは村山・上野・藤田の三人が加わりました。この会には、野村得庵や山口滴翠などが加わり、また家元の竹翠や竹窓を迎え、大谷尊由・住友春翠・三井高棟などを客員としました。こうした数寄者達は、蒐集の名物道具を取り合わせ、互いに茶会を開いて楽しんでいました。昭和8年、龍平翁が没するにあたり、竹窓家元から免許皆伝の証が贈られ、村山紹龍の名を得ています。このように茶の湯に深く心を染めた龍平翁であったからこそ、蒐集の茶道具にも数多くの名品が含まれています。



長谷川等伯 柳橋水車図屏風



(伝)道風 継色紙「あづさゆみ」



志野茶碗 銘「朝日影」



仁清 忍草絵茶碗



砧青磁 竹節水指



利休 桂籠花入

出典：公益財団法人 香雪美術館

### 主な収蔵品

◎重要文化財 ○重要美術品

◎大慧宗杲 尺牘 才長老宛	南宋 南北朝	古芦屋 瀟湘八景図八角釜	近衛家伝来	室町 桃山
大燈国師 法語 与道刃禅尼	平安	◎志野 松籬絵水指		南宋
(伝)道風 継色紙「あづさゆみ」	鎌倉	◎漢作唐物 利休丸壺茶入	大名物	南宋
(伝)貫之 高野切 第三種「わがいほほ」	南宋	漢作唐物 薬師院肩衝茶入	大名物	李朝
藤原定家 小倉色紙「たかさこの」	室町	高麗 井戸名物手茶碗	燕庵井戸	李朝
◎梁楷 踊布袋図 大川普済賛	桃山	高麗 割高台茶碗	長東割高台	大名物
◎(伝)周文 湛碧斎図 愚極礼才賛	江戸	◎楽長次郎 黒茶碗 銘「古狐」、覚々斎・如心斎箱書		桃山
◎雪舟等楊 真山水図 李蕪・朴衡文賛	桃山	本阿弥光悦 茶碗 銘「黒光悦」、宗旦箱書		江戸
◎長谷川等伯 柳橋水車図屏風	江戸	村田珠光 瓢形茶杓 銘「茶瓢」、覚々斎添文		室町
利休 鮎籠花入 銘「桂川」、宗徧受筒・箱書	南宋	武野紹鷗 茶杓 宗旦追筒		室町
楽常慶 阿吽獅子香炉 一對		野々村仁清 色絵吉野山図色紙皿		江戸
青磁 袋鼠香合 東本願寺伝来		尾形光琳画・乾山作 枯芦小禽図額皿		江戸

こうえきざいだんほうじん はくつるびじゅつかん

# 公益財団法人 白鶴美術館

〒658-0063 兵庫県神戸市東灘区住吉山手6-1-1  
TEL.078-851-6001 FAX.078-851-6001  
URL http://www.hakutsuru-museum.org/

**アクセス** 阪急御影駅より北東徒歩1キロ（約15分）  
阪神御影駅、JR住吉駅から市バス38系統「渦森台」行「白鶴美術館前」下車すぐ  
阪神高速3号神戸線 大阪方面より魚崎出口から北へ1.5キロ 姫路方面より、摩耶出口から北東6キロ



昭和6（1931）年、白鶴美術館は白鶴酒造七代目嘉納治兵衛（1962～1951）が自らの蒐集品を一般公開することを目的として設立されました。その設立趣意書には、「予は夙に美術奨励に意あり故に多年蒐集する處の美術並に工芸品等の如きも獨り自家の愛玩物として死蔵するを好まず、これを社會一般に公開し以て美術思想普及の資に充つ…」とあります。

嘉納治兵衛、雅号鶴翁は文久2（1862）年に奈良で生まれました。古美術に造詣の深かった実父、中村堯圃の影響もあり、美術品には早くから興味をもっていたようで、明治8（1875）年から開始された奈良博覧会では看守を務め正倉院、法隆寺などの寺宝に接しています。灘の酒造家である嘉納家に入った後、美術品蒐集を本格化させるのは明治30年頃からです。先の趣意書に述べられる美術の「公開」について、その意識が早くから芽生えていたことは、明治40年出版の蒐集品図録『白鶴帖』（天・地）二巻が証明するところですが、掲載される作品には、現在、当館の代表的な収蔵品も多数含まれており、当初より質の高い作品が蒐集されていたことが伺われます。明治40年代、当時の関西数寄者の流行に呼応するように、鶴翁は煎茶から抹茶へとその趣味を転換します。後に「茶人といわれんよりは美術愛好家と呼ばれたい」と語って



本館と八角燈籠

る鶴翁ですが、蒐集美術品の多くは茶会に使用されました。現在、当館所蔵となっている「饗養文觚」（商時代）には中筒をつけ花生とし、「白釉劃画牡丹文大鉢」（北宋時代）、「青磁鉄鉢」（元時代）には黒塗の蓋をつけ水指としています。茶会の中で生きる美というものを大切にしたいといえるでしょう。

当館は2011年、設立80周年を迎えました。先述の趣意書の冒頭には「夫れ美術は時代精神の現はれにして又文化を量るの尺度なり、國盛んなれば美術榮え、國衰ふれば美術亡ぶ…」と記されます。蒐集から公開まで、当美術館には、ひとりの数寄者の美術に対する大いなる理想が込められています。

## ギャラリー トーク

白鶴美術館  
主任学芸員 海原靖子

「象頭兕觥」中国、商時代（重要文化財）

この器は盛酒器といわれます。胴部に描かれているのは、青銅器の正文に多い「饗養」と呼ばれる獣面文です。器形は小ぶりであり丸みのあるものですが、雷文（うずまき文様）を地にひしめく動物文は異様に思えます。この造形感覚はもとより、この精緻な文様が、はるか三千年以上前の人びとの鑄造技術によって生みだされていることに驚きを禁じ得ません。

「白地黒掻落龍文梅瓶」中国、北宋時代（重要文化財）

「掻落」とは、器面全体に塗った化粧土や黒泥等をへらなどで削ぎ落して図を描き出す手法のことです。化粧土を削り過ぎないように黒層部分だけを削ぎ、幻獣である龍の勇壮な姿を描き出しています。正面からは鱗で覆われた体、渦巻くたてがみなど龍、特有の印象を与えていますが、裏側からみると、最後は二股の尾びれのように描かれているのです。



「饗養文觚」商時代



「象頭兕觥」商時代（重要文化財）



「白地黒掻落龍文梅瓶」北宋時代（重要文化財）



「高野大師行状図巻（巻四より部分）」鎌倉時代（重要文化財）



「瀟湘八景図画帖（山市晴嵐）」祥啓筆 室町時代（重要文化財）



「梅花天目茶碗」南宋時代

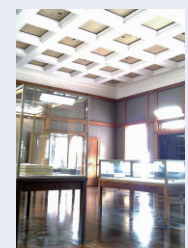
出典：図録「白鶴美術館名品選」

## 施設案内

開館日：春季、秋季（会期中、月曜休館但し月曜が祝日の場合翌日）  
開館時間：10時～16時半（入館は16時まで）  
入館料：大人800円／大学、高校生500円／中学、小学生250円  
（割引：団体は20名以上2割引、65歳以上要証明 500円）  
駐車場：乗用車20台、バス2台（無料）  
新館：主要所蔵品、オリエント絨毯  
講演会室：講演会は春秋展示期間中、各一回開催  
茶室：秘庵（展示期間中の土、日、祝日に観覧可 入室不可）



本館一階



本館二階



中庭の池からみえる茶室  
出典：『白鶴美術館』  
神戸新聞出版センター

八角燈籠：中庭に据えられているのは東大寺の八角燈籠（国宝）の写しです。当館開館（昭和9年）時に設置され、盛大な燈籠供養式が営まれています。当館の重要な記念碑であり、所蔵作品でもあります。

館内：当館の展示室内は大きな窓がとられ、刻々に変化する自然の光が展示品の表情を豊かにしています。床の寄木や鶴をモチーフとした釘隠、照明器具、格天井の画なども見逃せない装飾品です。

## 主な収蔵品

		●国宝	○重要文化財
<b>【中国青銅器】</b>			
○饗養夔龍文方卣	商時代		
○象頭兕觥	商時代		
鳥型卣（大保卣）	西周時代		
雷文有蓋卣	西周時代		
<b>【中国銀器】</b>			
○鍍金龍池鴛鴦双鱼文銀洗	唐時代		
○鍍金花鳥文銀製八曲長杯	唐時代		
○鍍金狩獵文六花形銀杯	唐時代		
<b>【中国古鏡】</b>			
銀貼靈獸鏡	隋時代		
螺鈿鴛鴦宝相華文八花鏡	唐時代		
銀貼海獸唐草文八鏡	唐時代		
<b>【中国陶磁器】</b>			
唐三彩鳳首瓶	唐時代		
○白地黒掻落龍文梅瓶	北宋時代		
梅花天目茶碗	南宋時代		
○金欄手獅子牡丹唐草文八角大壺	明時代		
<b>【経巻】</b>			
●賢愚経	奈良時代		
●大般涅槃経集解	奈良時代		
<b>【絵画】</b>			
○瀟湘八景図画帖	祥啓筆	室町時代	
○四季花鳥図屏風	狩野元信筆	室町時代	
○高野大師行状図画		鎌倉時代	
金箋春秋図屏風	田能村竹田筆	江戸時代	

# 財団法人 大和文華館

〒631-0034 奈良県奈良市学園南1-11-6  
TEL.0742-45-0544 FAX.0742-49-2929  
URL http://www.kintetsu.jp/yamato/

**アクセス** ■近鉄奈良線「学園前」駅下車、南出口から徒歩7分  
■大阪(近鉄難波駅)から奈良行快速急行約26分(難波発車)  
■奈良(近鉄奈良駅)から難波行快速急行、約9分  
■京都(近鉄京都駅)から特急、急行西大寺行乗り換え、約40分



## ギャラリー トーク

大和文華館  
学芸部 瀧 朝子

大和文華館の所蔵品は美術館建設のために、作品の鑑賞価値を重視して蒐集されてきました。そのため、特に茶道具を意識した蒐集は行われませんでした。しかし、日本での美術品鑑賞が茶の湯と深く関わっていたという歴史的な側面を持つこと、また、大和文華館に原三溪(富太郎)や益田鈍翁(孝)の旧蔵した名品が収蔵されたことから、数は少ないながらも茶席に用いられた作品が所蔵品には含まれています。  
近衛家に伝来した「色絵おしどり香合」(江戸時代)は野々村仁清の作で、『槐記』には近衛家熙(豫楽院)が茶会に仁清の鴛鴦香合を用いたことが記されています。その愛らしい姿は、日本人の好みをそのままあらわしているようです。「雪中帰牧図」(中国・南宋時代)は益田鈍翁の旧蔵品であり、矢代幸雄は原三溪とともに益田鈍翁の茶室を訪れた際に初めてこの作品を見て、そのすばらしさに驚歎したと伝えられています。  
建物を取り巻く文華苑には四季を通して様々な花々が咲き、目をたのませてくれます。ゆったりと鑑賞を楽しむことの出来る空間を堪能していただけましたら幸いです。

## 「奈良に生まれた大和文華館」

財団法人大和文華館の歩みは、昭和21年(1946)5月に始まります。日本の古代文化と芸術の揺籃地ともいべき大阪、奈良、京都、三重に敷設する近畿日本鉄道株式会社(近鉄)の社長種田虎雄は、国内外から訪れる多くの人々に、日本・東洋の文化を紹介できる施設が必要だと考えていました。当時日本は文化立国として、敗戦後の新たな一歩を踏み出したばかりだったからです。



吉田五十八設計の建物正面

その種田に共感し、美術館設立の全面的な委託を受けたのは、矢代幸雄(1890-1975)

でした。矢代は東洋の美のための国際的に通用する施設を作りたいという種田の理念を実現すべく、その後14年かけて作品の蒐集を重ね、美術館開館に向けて準備を進めます。昭和35年(1960)10月、当時の近鉄社長、佐伯勇により学園前蛙股池の丘の上が選ばれて本館が建設され、近鉄創立50周年事業の一つとして大和文華館は開館しました。昭和60年(1985)には美術研究所を併設、辰野金吾によって設計された奈良ホテル・ラウンジの一部(明治42年(1909)建築)も移築されて文華ホールと名付けられました。

多くの美術品とともに、周辺の美しい自然を心まで味わいながら憩うことのできる場所・大和文華

館はこうして奈良の地に生まれました。

## 「竹の庭の美術館」、文華苑

矢代は東洋の美術は、「自然の額縁」のなかにおいて一番美しく見ると考えていました。この理念を受けて本館を設計したのが、日本芸術院会員、吉田五十八です。大和文華館は蛙股池をのぞむ高台の上にあり、文華苑と呼ばれる自然苑に囲まれています。展示室の中央には中庭が設けられ、竹が植えられています。作品鑑賞の間には、この「竹の庭」のすがすがしい緑で目を休めることができます。

大和文華館では、自然と調和した東洋美術の新たな表情に出会っていただけることを願っています。



根来塗茶器



色絵おしどり香合



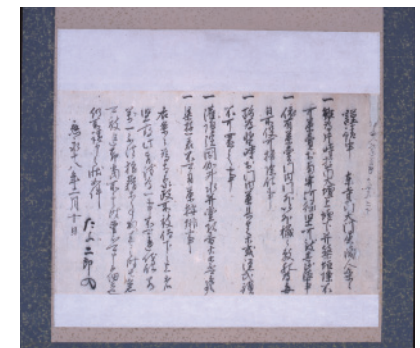
国宝 雪中帰牧図(右幅)



伊勢集断簡 石山切



重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵  
小大君像



東寺茶売商人太夫二郎講状

## 施設案内

開館時間：午前10時～午後5時(入館は4時まで)  
休館日：毎週月曜日、年末年始。(ただし、月曜日が祝祭日の場合開館し、翌日が休館。展示替え期間中は3～4日間休館。)  
入館料：〈平常展〉大人600円 高校・大学生400円  
小中学生無料  
〈特別展〉大人900円 高校・大学生700円  
小中学生無料  
※20名以上の団体は相当料金の2割引・1名無料。身障者手帳等ご提示の方はご本人と同伴者1名まで2割引。入館料には展観、展観解説、講演会、文華苑が含まれます。  
※無料駐車場あり。

## 主な収蔵品

矢代幸雄の大和文華館開館前及び館長時代には、美術鑑賞に関する世界的な視野から、日本・東洋の美を代表する名品が蒐集され、それらは現在においても所蔵品の中核をなしています。その後も年々、コレクションの充実が計られてきました。  
現在、大和文華館は日本、中国、朝鮮を中心とした、東アジアの絵画、書蹟、彫刻、陶磁、漆器、金工、染織、ガラスなど、およそ2,000件を所蔵しています。  
また、故中村直勝博士蒐集古文書(雙柏文庫)を664件、近藤家旧蔵富岡鉄斎書画を143件、鈴鹿文庫(和書)を約6,162冊所蔵しています。

●国宝 ○重要文化財 ○重要美術品

- 「寝覚物語絵巻」(平安時代)
- 「一字蓮台法華経」(平安時代)
- 「婦女遊樂図屏風(松浦屏風)」(江戸時代)
- 「李迪筆雪中帰牧図」(中国・南宋時代)
- 「趙令穰筆秋塘図」(中国・北宋時代)
- 「佐竹本三十六歌仙絵小大君」(鎌倉時代)
- 「可翁筆竹雀図」(南北朝時代)
- 「高麗青磁九龍浄瓶」(朝鮮・高麗時代)
- 「阿国歌舞伎草紙」(桃山時代)
- 「宮川長春筆美人図」(江戸時代)



門と文華苑



改装された展示場



竹の中庭がある展示場

## 展観・列品解説・日曜美術講座・講演会

年間に約7回、館蔵品を中心とする平常展を行い、期間中に各一回の本館学芸員による日曜美術講座があります。また毎年1、2回の館内外の美術品を展示する特別展を開催し、招待講師による特別講演会を行います。平常展・特別展ともに、毎週土曜日午後2時からは、本館学芸員による列品解説を行います。

出典：財団法人 大和文華館